



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

第74回

優良公民館表彰

令和3年度 表彰館事例集



文部科学省総合教育政策局

地域学習推進課

第74回（令和3年度）優良公民館表彰 表彰館一覧

最優秀館（1館）		ページ
茨城県	笠間市立笠間公民館	…21

優秀館（4館）					
北海道	寿都町総合文化センター ※	…5	福井県	高浜町立和田公民館	…53
宮城県	仙台市高砂市民センター	…11	福井県	福井市河合公民館	…55

表彰館一覧（上記5館含む）					
北海道	別海町東公民館	…1	静岡県	静岡市藁科生涯学習センター ※	…61
北海道	泊村公民館	…3	静岡県	島田市伊久身農村環境改善センター ※	…63
北海道	寿都町総合文化センター ※	…5	静岡県	浜松市北浜南部協働センター ※	…65
青森県	今別町中央公民館	…7	愛知県	田原市福江市民館	…67
岩手県	久慈市長内市民センター ※	…9	愛知県	常滑市南陵公民館	…69
宮城県	仙台市高砂市民センター	…11	京都府	宮津市上宮津地区公民館	…71
宮城県	大崎市中央公民館	…13	京都府	綾部市吉美公民館	…73
秋田県	男鹿市若美公民館	…15	兵庫県	三木市自由が丘公民館	…75
福島県	福島市飯坂学習センター	…17	兵庫県	姫路市立勝原公民館	…77
福島県	泉崎村中央公民館	…19	奈良県	奈良市立都跡公民館	…79
茨城県	笠間市立笠間公民館	…21	和歌山県	日高川交流センター ※	…81
栃木県	宇都宮市河内生涯学習センター ※	…23	鳥取県	倉吉市高城コミュニティセンター	…83
群馬県	安中市秋間公民館	…25	鳥取県	八頭町隼地区公民館	…85
群馬県	東吾妻町東公民館	…27	島根県	邑南町阿須那公民館	…87
埼玉県	さいたま市立大宮南公民館	…29	岡山県	北房公民館	…89
埼玉県	深谷市上柴公民館	…31	岡山県	浅口市中央公民館	…91
千葉県	袖ヶ浦市根形公民館	…33	広島県	広島市温品公民館	…93
千葉県	市原市立五井公民館	…35	広島県	尾道市重井公民館	…95
神奈川県	相模原市立上鶴間公民館	…37	広島県	広島市高陽公民館	…97
神奈川県	平塚市立横内公民館	…39	山口県	山陽小野田市埴生公民館	…99
新潟県	糸魚川市上南地区公民館	…41	山口県	山口市吉敷地域交流センター ※	…101
新潟県	津南町公民館	…43	徳島県	鳴門市堀江公民館	…103
富山県	滑川市滑川東地区公民館	…45	愛媛県	西条市禎瑞公民館	…105
富山県	砺波市立雄神公民館	…47	愛媛県	西予市中筋公民館	…107
石川県	金沢市鞍月公民館	…49	大分県	日出町豊岡地区公民館	…109
石川県	輪島市立浦上公民館	…51	鹿児島県	宇検村生涯学習センター「元気の出る館」	…111
福井県	高浜町立和田公民館	…53	鹿児島県	鹿児島市鴨池公民館	…113
福井県	福井市河合公民館	…55	鹿児島県	鹿屋市東地区学習センター ※	…115
長野県	飯綱町公民館	…57	沖縄県	与那原町コミュニティーセンター ※	…117
岐阜県	瑞浪市大湫公民館	…59			

※… 公民館と同等の施設

地域の特徴を生かした自然体験活動の拠点

別海町東公民館



青少年事業 カヌー体験



成人向け講座 スノーシューウォーキング

公民館の沿革・年表

- 昭和58年12月 別海町中央公民館尾岱沼分館を廃止し、別海町東公民館を設置
- 昭和59年 2月 成人講座を開設
- 昭和59年 5月 尾岱沼長寿高齢者学級、床丹寿高齢者学級、本別海はまなす高齢者学級を開設（現：尾岱沼寿大学）
- 昭和60年 6月 尾岱沼ジュニアサイクリングスクールを開設（現：チャレンジスクール）

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

当館は地域の文化活動の中心としての役割を担いながら、自然豊かな地域である利点を生かし、自然体験活動にも力を入れている。

特に、青少年の健全育成事業であるチャレンジスクールでは、沢登りやカヌー体験など、自然体験活動の楽しさを学ぶプログラムを中心に実施している。

また、地域の自然環境を活用した新たなアクティビティを積極的に事業に取り入れ、社会教育活動から離れがちな成人期の参加者からも好評を博している。

1. 都道府県名	北海道	3. 公民館対象人口	1691人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し	
2. 市区町村名	別海町	4. 建物設置年月日	昭和58年12月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 621人 <input type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 6877人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 4,376人	合計	11,874人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人）	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任 3人	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人 （職員のうち社会教育士の数 0人）	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 合計 4人		
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ）					
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（館内に体育館として使用できるホールがあり、地域の体育施設としても機能している）					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他		

別海町東公民館

OPEN 9:00~22:00

TEL 0153-86-2141

HP <https://betsukai.jp> (町HP)

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

別海町の海岸部の集落にある当館は、町内の他の館に比べて対象人口が少なく、各種講座の参加人数確保に苦心していた。

そこで、近隣にある流れが緩やかでカヌーをするにはうってつけの川や、子どもでも沢登りができる沢など、沢山の「遊べる」スポットがあることを生かし、自然体験活動の拠点として各種事業に取り組んでいる。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

前述のとおり当館では特に自然体験活動に注力しており、夏はカヌーや登山、沢登り、SUP（スタントアップパドルボード）体験を、冬はスキーやスノーシューウォーキングを行う講座を開講し、いずれも参加者から好評を博している。

地域との連携にも注力しており、地域団体の支援を行ったり、地区文化祭事業では公民館職員が積極的に参加し、地域住民との親睦を深めることも重要な仕事であると考えている。

なお、対象地域住民の多くが漁業関係者であることから、事業の実施時間は漁業関係者やその家族が参加しやすいように配慮しており、地域社会の構造にできる限り寄り添った事業実施を行っている。

また、対象地域人口が多くないことから、館として特に重要視していることが各種講座のリピーターの確保である。事業における体験や学びの質を向上させることにより、口コミ等で参加者が新たな参加者を呼び込む好循環ができつつあるため、好評の講座は1回では終わらず、繰り返し開催することによりリピーターを定着させることに成功している。



青少年事業・成人向け講座 クテクンの滝沢登り

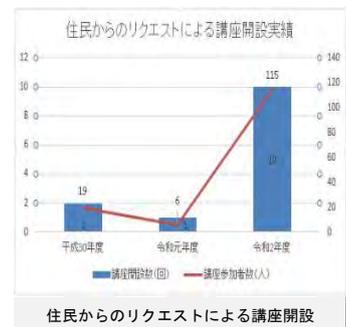


成人向け講座 SUP体験

3. 取組による成果や効果

特に成人向けの事業において、延べ参加者数が前年度比で大幅に増加しており、住民からのリクエストで開催する講座の開催数も前年度を大きく超えている。

コロナ禍にあってサークル活動の鈍化により来館者数が減少しているが、公民館事業は活発な活動を維持しており、地域の文化・自然体験活動の拠点としての取組が住民に広く認知されることにより、大幅な来館者減少を食い止めている。



4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

社会教育委員の会議を年3回程度開催し、活動計画等を検証・審議し、公民館運営の改善を図っている。

また、来館者からの積極的な意見聞き取りや事業参加者へのアンケートをきめ細かく実施し、地域の要求課題に応えるため、PDCAサイクルを重視した公民館運営を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

地域に密着し、地域の人々に愛される施設でありたいと考えている。

有意義な取組を行えば、参加者が新たな参加者を呼び、より有意義な取組へ繋がっていく。常に先を見据えて、今の事業に取り組む。



子ども事業 スキー教室

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

自然体験活動に係る事業が好評かつ継続性のある活動となっているため、そうした新しい取組を積極的に導入し、地域の特性を生かした独自性のある事業を行ってきたい。



成人講座・子ども事業共催 登山体験



泊村公民館外観



「世代間交流カルタ大会」

「通学合宿」

公民館の沿革・年表

- 昭和61年12月9日泊村公民館誕生
- 昭和61年12月9日泊村公民館管理規則設置
- 昭和61年12月17日泊村公民館設置条例施行
- 昭和62年10月第1泊村公民館まつり開催
- 昭和62年より泊村文化団体協議会加盟単位団体による活動の開始,また、各種社会教育活動の拠点として利用され現在に至る。

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 「世代間交流カルタ大会」日本古来の百人一首を通して、幅広い年代や地域の人たちとの交流を深める。様々な体験活動の場を提供することにより、児童生徒の豊かな学校外活動を支える。
- 「泊村通学合宿」子供たちが家庭を離れ異年齢集団で泊村公民館に寝泊りしながら学校に通う取組である。食事づくりや清掃等、身の回りの日常生活に関する基本的なことを、子供たちが自分で行い、共同生活を通してみんなでやり遂げることの楽しさを共有し、自主・自立心を養う。

1. 都道府県名	北海道	3. 公民館対象人口	1,537人（R3年5月）	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN（Wi-Fi等）	
2. 市区町村名	泊村	4. 建物設置年月日	昭和61年12月9日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 109人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 161人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,319人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 2811人（ ）				合計 4,400人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 （ 職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 ）					合計 2人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他（公民館まつり・敬老会・成人式・各種カルチャー教室）					
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（花いっぱい運動）					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 体育協会・スポーツ少年団育成会・文化団体協議会・公民館まつり実行委員会・社会教育委員協議会スポーツ推進委員会・教育委員会					

泊村公民館

OPEN 午前9時～午後9時 H P
 TEL 0135-75-3258 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 少子高齢化、人口減少が進み社会教育事業への参加者が減少傾向にある。子ども達においては、SNSや通信機器の発達に伴い、自宅での遊びが増加傾向にあり、家庭教育支援を行っていく必要性がある。また、高齢者教育の推進については、生きがいを持てるようにスポーツや余暇活動の奨励にも配慮していくことが大切と考えている。
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、感染防止のため、会議や事業等の開催を中止としている。地域住民同士の交流や、生涯学習の機会が減少していることから、感染症の拡大を防止しながら地域住民の学習機会の充実を図ることとした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

「とまりスタイル」の構築

泊村の生涯学習環境の実態を踏まえ、地域の特色を生かしつつ、地域課題の解決に向け、次の3つのスタイルを踏まえた学習機会を提供する。(1) 同時に同じ会場で集まらずに、地域住民が交流するスタイル (2) 家庭と連携し、おうち時間を活用しながら実施するスタイル (3) 公民館が生涯学習の拠点としての役割を担うスタイル

①「鮭料理フォトコンテスト」

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、社会教育事業の中止が続く中、新しいスタイルの家庭教育支援を設定した。地元の食材を使用し、家庭で親子が共に料理をする活動を行うことで新たな気づきにつなげることを狙いとした。公民館では、子どもたちと地域との交流機会の構築の場として、料理の写真を展示することにより、各家庭の料理で交流を図った。

②「作って書いて伝えよう！とまりっ子へのメッセージ」(高齢者大学における飛び出すメッセージカードづくりと村内学校の卒業生との交流)

寿(高齢者)大学生が、子どもたちと間接的に関わる機会を構築し、生きがいづくり・やりがいづくりにつなげる。地域全体で子どもを見守り育てる体制づくりの一貫として、地域が学校及び児童生徒を応援する体制づくりの一貫とする。寿大学生が、各家庭で飛び出すカードを制作し、子どもたちにメッセージを還元することを行った。



鮭料理フォトコンテスト



作って書いて伝えよう！

3. 取組による成果や効果

● 鮭料理フォトコンテスト

展示された写真に対し、閲覧者が自由にコメントを寄せ合うことで、参加者同士の交流を図ることができた。集合が難しい中でも、参加者は各家庭で親子で調理に取組むことで親子の絆づくり、食育の推進につながった。

● 作って書いて伝えよう！とまりっ子へのメッセージ

寿大学においても学びをとめることなく、在宅での取組ができた。また、メッセージカードをもらった卒業生も寿大学生の応援メッセージを受け止め、次のステップへ意欲を持つことができ、多世代間交流の創出が行えた。



鮭料理フォトコンテスト

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 公民館まつり実行委員会の開催
- 年2回開催の社会教育委員協議会にて、公民館における取組等について協議
- 参加者アンケートの実施
- 学習者及び学校、各団体等からの聞き取り



公民館まつり

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

「地域の公民館」としての存在意義を果たしていくために、社会の動向を把握し、地域の実態に即した公民館活動を展開していくことを重要視し、地域住民がつどい、自ら学ぶ場づくりを大切にしている。さらに、コロナ禍の時代の流れにあった事業や講座の運営(オンライン等)にチャレンジしている。



英会話でクッキング

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

これからの生涯学習の在り方について見直し、住民一人一人のニーズにあった学習機会を提供し、自発的に学ぶことによって「自己実現」を目標とする。また、個人学習だけでなく、集団的自立学習の機会を提供することで、「社会的なきずな」を深めてもらう。さらに、地域住民が社会教育の場として、「学ぶ・つながる・役立つ生涯学習」の推進拠点となる公民館を目指したい。



しめ縄作り

創造性あふれる、文化のまちの夢広場！！

寿都町総合文化センター



寿都町総合文化センター外観



すつつ子ども教室「科学実験教室」

公民館の沿革・年表

- 昭和37年11月27日寿都町公民館誕生
- 公民館の誕生後、文化団体、スポーツ団体他、社会教育団体発足
- 平成7年9月24日寿都町公民館の老朽化により、現在の寿都町総合文化センター「ウイズコム」開館
- 平成7年町民の生涯学習を推進する「ウイズコムカレッジ」開講
- 令和2年度、コロナ禍で臨時休館を経験

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 寿都町総合文化センター「ウイズコム」
明日の寿都を築くという意味を語源に「ウイズコム」と名付けられた総合文化センターは、年間3万人あまりの利用者が地域課題の解決に向けた学びや、趣味の講座等での生きがいづくりに取り組んでいる。
- すつつ子ども教室
日本技術士会北海道本部の方々に講師を依頼し、実験を通し科学の楽しさに触れる体験を行っている。また、地域の大人たちが関わることで、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進し、地域コミュニティづくりを目指している。

1. 都道府県名	北海道	3. 公民館対象人口	2845人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	寿都町	4. 建物設置年月日	平成7年9月24日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1030人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 7450人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 1690人 (寿都町主催事業、その他会議等) 合計 10,170人				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 9人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人 職員のうち社会教育士の数 2人) 合計 11人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (館内に文化財展示室があり、寿都町の歴史について触れられる。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (寿都保育園、寿都小学校、潮路小学校、寿都中学校、寿都高校、北翔大学、NPO法人ソーシャルビジネス推進センター、公益社団法人日本技術士会北海道本部)				

寿都町総合文化センター

OPEN 9:00~22:00

H P

<http://www.town.suttu.lg.jp>

TEL 0136-62-2100

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

● 地域の特産品開発

寿都町は、漁業・水産加工の町として知られている。一方、農業分野では、新たな特産品として、バジルの生産・販売を行い、商品開発と雇用創出を図る取組を進めている。

● 寿都町デジタル寺子屋事業

多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、資質・能力が一層確実に育成できる教育 I C T 環境の実現と、子どもたち自身が I C T を使いこなすスキルを身につけられるよう取組を進めている。また、このような I C T 環境の充実により放課後や長期休業中、臨時休校中の学習の充実を目指している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

● 地域の特産品開発

令和元年度から寿都町で水耕栽培が始まった「風のバジル」を活用した商品開発では、寿都高校の生徒のユニークなアイデアからマスコットキャラクター「風海（ふ〜み）」が誕生した。また、高校生とまちづくり人材ボランティアスタッフの方々が連携してのレシピ作りは毎月1回のペースで試作会が実施されている。

● 国指定史跡等の活用に向けた活動

平成27年から寿都高校と町教委が連携し「カクジュウ佐藤家」や「橋本家」などに保存されている古文書の整理などを行っている。

● 寿都町デジタル寺子屋事業

① 寿都町放課後子ども教室での「お守り作り」体験

参加した子ども達はTV会議システムをつないだ講師からお守りについて説明を聞いたり、動画を視聴したりした後に、各自が創意工夫し、お守り作りに取り組むことができた。また、講師は、子どもたちの様子を画面で確認し、質問があったら答えていた。

② 学童保育でのデジタル教材を活用した「放課後学習」

児童生徒が各学校で利用しているAIドリルを学童保育でも活用した学習会を実施した。



古文書整理調査



デジタル寺子屋事業

3. 取組による成果や効果

● 寿都高校との連携による地域課題解決に向けた取組

寿都高校と地域が連携した取組では、参加した生徒を中心に地域課題への意識の高まりが伺え、環境美化活動への参加が増えた。このため、令和2年度には環境省の「地域環境美化功績者表彰」を受賞することができた。

● 寿都町デジタル寺子屋事業

児童一人ひとりが、自分の端末を使い、学校で使用しているAIドリルを使用し、学習活動を行うことができた。I C T を活用することで児童に合った難易度の学習をすることができた。



デジタル寺子屋事業

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

● 寿都町総合文化センター運営審議会委員が事業の視察等を行い、年に3回の運営審議会で事業の検証を行い改善方法について検討を行っている。

● 連携をしている寿都高校では、コミュニティ・スクールが導入されていることから学校運営協議会委員による視察や、客観的な評価を実施するなど、地域と学校の連携協働のあり方について検証し改善を図っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 誰でも集え、親しみのあるあたたかい環境づくり
- 高齢者等の生きがいづくり
- 住民ニーズに対応した多様な講座・教室の企画及び開催
- 若年層のリーダー育成
- 多くの町民が集まり学習できる環境づくり
- I C T 環境の整備と活用
- 英語教育学習によるグローバル人材育成
- その時々に応じた地域課題への対応



ブックフェスティバル

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- まちの課題を住民自らが解決していくことができるような学習環境を整え、地域活性化に寄与する。
- コロナ禍でも町民がコミュニケーションを重ねられるよう、オンラインも含め創意工夫をし、公民館としての役割を果たし、生涯学習の推進を図る。



ウィズコムカレッジ

「つどう」「まなぶ」「むすぶ」公民館活動

今別町中央公民館



小学校「チャレンジクラブ」凧づくり



家庭教育支援事業「ほっとケーキサロン」

公民館の沿革・年表

- 昭和39年11月 今別町中央公民館設置
- 平成12年 優良公民館表彰受賞
- 平成22年 今別町中央公民館改修工事
町民ふれあい文庫に図書貸出業務を移行
- 平成27年 家庭教育支援チーム「T A Z U N A」発足
- 令和元年 小学校チャレンジクラブにて、地域住民や公民館講座受講者が講師として参加

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 小学校「チャレンジクラブ」凧づくりの様様
公民館講座の講座受講生を小学校「チャレンジクラブ」（学校のクラブ活動）に講師として派遣をしている。
- 家庭教育支援事業「ほっとケーキサロン」の様様
就学前のこどもと保護者を対象にした集いの場として「ほっとケーキサロン」を実施することで、子育て中の保護者同士だけでなく、家庭教育支援チームやこども園などのつながりも形成されている。

1. 都道府県名	青森県	3. 公民館対象人口	2,446	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	今別町	4. 建物設置年月日	昭和39年11月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	50台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1850人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 250人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計 2,100人		
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人)	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任 3人 (職員のうち社会教育士の数 0人)	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 3人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> こどもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> こども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	

今別町中央公民館

OPEN 8:30~21:00

H P

T E L 0174-35-2157

S N S



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ひと昔前は、各町内において子育ての支援や助言など地域で子どもを育てる体制ができていたが、少子高齢化によりその体制が弱まり、子育てをするにも地域における支援や助言が受けられず、孤立化することが課題となっていた。
- 公民館活動に参加している地域住民にとって、講座で習得した学びを披露する場が少ない上に公民館で活動する大人と、子どもとの交流も少ない状況であった。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【家庭教育支援事業の実施（子育て支援・家庭教育支援）】

今別子ども園と家庭教育支援チーム「TAZUNA」（以下「支援チーム」という。）、公民館が連携して、就学前の子どもや子育て中の保護者等を対象に「ほっとケーキサロン」を実施。子どもが自由に遊べる空間の提供の他、保護者に子育てに関する学び（情報提供を含む）や相談、リラックス（リフレッシュ）できる講座等を月1回程度実施している。

《活動例》「リフレッシュヨガ」、「子育てワンポイント講座」、「クリスマス工作」等

【地域人材の活用（高齢者の学び支援・地域学校協働活動・子どもの体験活動）】

公民館講座の講師（町民）及び講座受講生を、小学校「チャレンジクラブ」（学校のクラブ活動）の講師として派遣し、公民館講座で身に付けた学びを児童に伝えながら交流を図っている。

また、国際理解の一環として、当町在住のALT（外国語指導助手）やCIR（国際交流員）を活用して英会話教室や自国の歴史・文化講座を開催している。

《チャレンジクラブへの講師派遣》凧作り、茶道、めり絵

【公民館講座の実施（高齢者の学び支援）】

現在、「大人のめり絵」や「あみもの教室」等12講座を実施している。また、毎年10月には公民館まつりを開催し、講座で作成した作品や練習の成果を披露している。



ほっとケーキサロン



小学校「チャレンジクラブ」茶道

3. 取組による成果や効果

○少子高齢化により、地域によっては子どもが1人しかいない地域があるなど子育て世帯の孤立化が懸念されていたが、「ほっとケーキサロン」を実施したことで子育てする保護者のネットワーク形成につなげることができた。また、親子体験教室など新たな事業を行うことにより、家庭教育支援事業がさらに活性化した。

○公民館講座で学んだことが、小学校「チャレンジクラブ」で生かされ、児童との交流につながっている。

○公民館まつりの開催により、各講座の作品展示や練習の成果を披露できるほか、講座受講生の学習意欲向上にもつながっている。



家庭教育支援チーム「TAZUNA」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

○学識経験者や社会教育関係者等で構成される公民館運営協議会を年2回開催し、公民館事業について委員からの意見を取り入れ事業改善を図っている。

○リクエスト講座を随時受付し町民のニーズに対応できるよう努めている。

○各事業終了後にアンケートを実施して評価を行うとともに、自己点検を実施し、次年度の事業運営に生かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館の基本的な役割「つどう」「まなぶ」「むすぶ」を意識した上で、地域住民が、気軽に集い、語り合うことができる交流の場、憩いの場となることを大切にしている。

また、多世代の方が交流できるような企画を考え、地域の活性化へと発展させることが公民館の役割であると考えている。



公民館まつり

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

新型コロナウイルス感染症の影響により、人が多く集まるようなイベント等の実施が難しくなっており、このままでは公民館利用者の学習意欲の低下や目標を見失うことに繋がる恐れがあると考えている。このような状況下でも、知恵を出し合い、どうすれば開催できるかを利用者とも協議し、新しい生活様式に対応した企画を考え、公民館活動の更なる促進を図っていききたい。



モンゴル歴史講座



わいわい体験塾「内間木洞探検」



ちょこっとボランティア

公民館の沿革・年表

- ・平成8年4月 久慈市勤労者家庭支援施設開設
(久慈市立長内公民館)
- ・平成29年4月 勤労者家庭支援施設廃止
久慈市長内市民センター開設
- ・令和元年10月 台風19号により、避難所開設
ボランティア活動の拠点となった。

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- ・令和2年7月開催「わいわい体験塾内間木洞探検」。小学生を対象に洞窟の中を探検、鍾乳洞等について学習した。郷土資源理解につながる、貴重な体験となった。
- ・地域づくり事業「ちょこっとボランティア事業」
令和2年9月に運動会直前に長内小学校の校庭の草取りを実施。市民センター利用団体やふれあいサロン、町内会等の団体等が連携した。学校への協力の他、住民交流の場となった。

1. 都道府県名	岩手県	3. 公民館対象人口	4838人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	久慈市	4. 建物設置年月日	平成8年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (久慈市)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2989人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 12782人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 15,771人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 3人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 (市民センター運営協議会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (世代間交流)				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (市街地に近ことから、サークルなど地区住民以外の利用も多い。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (長内保育園、いなり保育園、長内小学校、長内中学校、NPO法人ヤマセデザイン会議、長内活き活き振興協議会、学童保育所わんぱくクラブ、長内地区各町内会、長内地区老人クラブ連合会)				

久慈市長内市民センター

OPEN 9:00~22:00
TEL 0194-52-7400

HP <https://www.city.kuji.iwate.jp/>
SNS https://twitter.com/osanai_simin





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

長内地区は市内他地区に比較し市街地が近く、漁村集落から、病院・大型スーパー等がある地区まで13町内会がある。アパートが多い地区もあり、各町内会では、若い世代の参加・町内役員の交代、地域コミュニティの希薄化が課題となっている。また、津波や台風の被害があり、防災へ取り組みも課題となっており、町内会の課題共有に取り組んだ。

また、少子高齢化も進んでおり、将来地域を担う子供たちに、故郷を好きと思ってもらえるような体験や伝統芸能の継承・世代間交流に取り組んだ。2年度はコロナもあり、市や地域の事業が多数中止になったことから、住民の心身の健康に重点を置き取り組んだ。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【わいわい体験塾】

小学生を対象に、自然や世代間交流など様々な体験活動を実施。2年度は内間木洞探検、坐禅体験、小正月行事を実施した。学童保育所と連携し参加を募り、多くの児童が参加。**故郷の地域資源や世代間交流、郷土文化の理解につながった。**例年は流しそうめん等も実施している。

【盆踊り太鼓教室】

長内活き活き振興協議会で保有している太鼓を活用した地域団体と連携した事業。小学生も参加し世代間の交流や伝統芸能の継承へ取り組んだ。2年度はコロナのため活動の場がなかったが、元年度は、**地域の太鼓サークルと連携、盆踊り大会や敬老会に参加した。**今後は「盆踊り唄」について取り組み、継承に努めていきたい。



盆踊り太鼓教室

【ちよこつとボランティア】

地域の困りごとに協力する事業として、長内小学校の校庭草取りを年1回実施。3回目となった令和2年度は、**利用サークルや近隣の町内会・サロンと連携した。**長内小学校及び長内地区教育振興協議会と連携した事業。

【町内会交流会】

町内会長の交流会を開催し**町内会の課題・悩み事などの情報交換を実施した。**



町内会交流会

3. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果（ちよこつとボランティア事業）（町内会交流会）】

・ちよこつとボランティアでは、参加者が増えず同じメンバーだったが、地域団体との連携することにより、今まで参加してくれた方々の活力にもなり、また住民交流にもなった。

・町内会交流会では、地域の連携のきっかけづくりとして実施。情報交換ができたので、今後は事務局担当者の交流や自主防災会の交流会を開催し、防災など長内地区の課題に取り組みたい。

【これまでの取り組み全体による成果・効果】

・センター事業での「百歳体操」をきっかけにした、男性のみの「長内おとこの会」があり、代表者が地域や事業等で積極的に声掛けをして会員を徐々に増やし、センター事業の男性参加率もあがっている。また、老人クラブ等地域での交流活動にもつながっている。



百歳体操「長内おとこの会」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

・市民センター運営協議会（年間2～3回開催）において、各市民センターの戦略・運営方針・事業計画、実施状況等について協議し、地域の課題が運営に反映されているかどうか評価・検証し、必要に応じて改善に取り組むこととしている。

・また、事業実施後にアンケートを取る場合もあり参考にしてはいるが、直接参加者と対話して具体的な感想や提言を取り入れるようにしている。また、事業はできる限り職員全員で参加、実施後反省や次回に向けての改善点を検討している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

・人と人をつなぐ交流の場としての役割を意識し、**地域の潤滑油であるべく、地域団体等と連携して情報交換・共有**に努める。

・住民一人一人が尊厳をもって人生を送っていることを忘れず、対話に努める。

・**将来地域を担う子供たちについて、地域で育てていく。**



餅つきとみずき団子づくり

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

小中学生を巻き込めるような事業の展開。小学生には将来思い出に残るような体験や企業見学など、地域と連携した事業を実施したい。大人自身が地元をもっと好きになることも大切であり、地元魅力再発見事業として地域に密着した活動を取り入れていく。ボランティア活動は難しいものがあるが、地域住民の連携が根付くような活動を少しずつ継続していきたい。



小屋畑川源流を訪ねて



蒲生日和山山開き登山



花咲く海辺づくりプロジェクト（植栽）

公民館の沿革・年表

- ・昭和43年 高砂公民館開設
- ・平成2年 高砂市民センターと改称
- ・平成6年 現在地に改築
- ・平成16年 仙台市市民センターに指定管理者制度導入
- ・平成23年 東日本大震災発生
- ・平成26年 市民企画講座「中野ふるさと学校」開始
蒲生日和山山開き登山 第1回実施
- ・平成28年 ハマヒルガオプロジェクトを開始
(現「花咲く海辺づくりプロジェクト」)

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 蒲生日和山山開き登山（写真上）
令和2年7月に実施。「日本一低い山」の山開きとして例年は多くの市民が参加するが、コロナ禍のため一般参加者を募集せず実行委員会など関係者30名のみで登山をして、「新型コロナウイルス退散」を祈願した。
- 花咲く海辺づくりプロジェクト（写真下）
令和2年10月に実施。岡田小学校と共催し、5、6年生が種を拾い育てたハマヒルガオなどの海浜植物の苗を浜辺に植栽し、震災による津波で失われた自然の回復に貢献した。

1. 都道府県名	宮城県	3. 公民館対象人口	31,226人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	仙台市宮城野区	4. 建物設置年月日	平成6年5月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（公財）仙台ひと・まち交流財団 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 790人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 35729人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人（ ）				合計 36,519人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 5人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 6人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他（事業運営懇話会、アンケート）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他（児童館、保健センター、老人福祉センターなど） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（JR仙石線、国道45号などが集まる交通の要所に位置し、指定避難所にも指定。）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 （高砂・岡田・鶴巻の各小学校、高砂中学校、東北学院大学、高砂地区町内会連合会、高砂地区社会福祉協議会、高砂児童館、宮城野区中央市民センターなど）				

仙台市高砂市民センター

OPEN 9:00~21:00

H P <https://www.sendai-shimincenter.jp/miyagino/takasago/index.html>

TEL 022-258-1010

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 高砂市民センターは、仙台市東部に所在。担当地域には、住宅地、商業施設、物流拠点、農地が混在。
- 太平洋に面した沿岸部は、東日本大震災による津波で大きな被害を受け、担当地域の一部は災害危険区域に指定され、移転対象となった。このため、移転先での新しいコミュニティづくりを継続的に支援する必要がある。
- 震災を踏まえ、市民センターでは中野ふるさと学校メンバーをはじめとした地域住民とともに主催講座を企画し活動。以下のような、復興に向けた取り組みに力を入れている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【中野ふるさと学校（地域住民等の学習の成果並びに知識及び技能の活用）】

災害危険区域に指定された中野地区から移転した住民を中心に、月1回の企画会を実施しながら、地域の歴史の継承や新たな地域の魅力を発信するとともに、人々の再会の場づくりとなる事業を展開している。自主活動団体「中野ふるさとYAMA学校」も生まれ、蒲生日和山の発信を行うほか、メンバーが若者を対象とした事業で地域の案内役を務めるなど、活動の幅を広げている。

【蒲生日和山山開き登山（地域資源を活用したまちづくり）】

蒲生日和山（標高3m）は、津波被災地区にあり、「日本一低い山」として全国から多くの方が訪れる。市民センターで配布する登頂証明書は、年間900枚以上にのぼる。山開き登山は、日本一高い富士山の山開きに合わせ、7月に開催。中野ふるさとYAMA学校をはじめ、地域団体や行政機関など実行委員会を組織して開催しており、復興と地域活性化を図るイベントとして定着している。

【花咲く海辺づくりプロジェクト（環境保全、子どもの体験活動）】

地域の小学生が環境について学びながら、津波で失われた海辺の植生を回復するため、海岸で採取した種から苗を育て、植栽活動を行っている。海辺の植物に詳しい大学教授等から支援を受け、地区の各町内会をはじめ、大学や地域の企業と共に活動している。



中野ふるさとYAMA学校 情報発信活動



蒲生日和山山開き登山

3. 取組による成果や効果

- 中野ふるさと学校では、小学生を対象に地域資源である蒲生干潟の観察・学習会を企画・開催し、地域の歴史と自然環境を学ぶ機会を提供した。またグッズ交流会を企画・開催し、**住民同士の絆**を深めるなど、**住民主体の活動**が展開されている。
- 蒲生日和山山開き登山は、メディアで取り上げられることも多く、**被災地への関心**を高め、**地域の活性化**につながっている。また、自分たちの地域や活動への関心が高まることで、活動に参画する**住民の活力**、**主体的活動の推進**にもつながっている。
- 花咲く海辺づくりプロジェクトは、**世代間交流**の機会となるとともに、参加する児童が活動を通じて、**環境保全や地域の一員としての意識**を高めることができた。



蒲生干潟の観察・学習会

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 仙台市では、学識経験者等14名で構成する公民館運営審議会を年間6回開催。市内60館すべてに共通の公民館運営審議会として、市民センター事業について提言等を行っている。
- 高砂市民センターでは、館として事業運営懇話会やアンケートを実施し、地域の課題やニーズを把握するとともに利用者の意見を聞くことで、市民センターの事業の企画や運営の改善に反映させている。（仙台市市民センター各館共通の仕組み。）

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 被災した地域の生涯学習の拠点として、**震災の経験や教訓**、**地域の歴史・文化・自然**を**次世代に継承**するため、**担い手の育成**に取り組むとともに、**学習や活動の成果**を広く発信していく。
- 学びや交流の場の提供を通して、**地域住民の主体的活動を推進**するとともに、**公民館としてのつながりやノウハウ**を活用して、**ネットワーク構築**や**活動成果の発信**などの支援を行う。



グッズ交流会

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

令和3年3月の震災発生から10年が経過し、住民ニーズ等を再確認する時期に来ている。今後も、震災の経験や地域の歴史・自然環境等を次世代に継承するとともに、住民ニーズ等に基づき新たな事業を企画し、住民主体のコミュニティづくりを推進する。



住民と子どもたちの交流

ひとと地域をはぐくむホットな公民館を目指して

大崎市中央公民館



人材育成フォーラムでの集合写真



話題が尽きない参加者

公民館の沿革・年表

- ・昭和47年 古川市公民館新築
- ・昭和48年 本館，分館制度廃止
中央公民館，地区公民館に改める
- ・昭和63年 福祉学習普及公民館に指定
- ・平成3年 空調設備改修
- ・平成18年 1市6町の合併により大崎市となる
- ・平成23年 公民館地域運営推進室設置
- ・平成24年 災害復旧工事
- ・平成24年 地域づくり学習支援事業開始
- ・平成27年 古川第三小学校協働教育推進運営委員会に参画

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

●地域づくり学習支援事業「人材育成フォーラム」の様相
地域づくり学習支援事業として開催された「人材育成フォーラム」の様相。高度化・多様化する住民ニーズに対応できる人材育成のため、コミュニケーション能力を高めることを目的として行った。参加した33名の公民館職員は、研修の成果を各地域で発揮しており、生涯学習・地域づくりの拠点として「ひとと地域をはぐくむホットな公民館を目指して」の公民館運営が行われている。

1. 都道府県名	宮城県	3. 公民館対象人口	127582人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	大崎市	4. 建物設置年月日	昭和46年12月15日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 595人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 33293人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 0人 () 合計 33,888人				
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 9人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 4人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 12人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (青少年センター, 心のケアハウス, けやき教室, 古川市民会議) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 古川第三小学校				

大崎市中央公民館

OPEN 9:00~21:00

TEL 0229-22-3001

H P <https://www.city.osaki.miyagi.jp/index.html>

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 公民館は、生涯学習やひとづくり・地域づくりの拠点とした施設運営の推進を行政の責務としながらも、自立性の高い地域自治を築くために、どのような施設運営が望ましいか検討する必要がでてきた。本市の総合計画の重点プロジェクトの一つである「大崎市流地域自治組織の確立」に向けた取り組みと捉えた。
- 合併以来、各地域で積み重ねてきた生涯学習事業（活動）をより地域ニーズを取り込んだ事業、より地域還元できるような事業等へ展開するため、また、「持続可能な地域社会の実現」を推進するため、生涯学習の推進体制及び拠点施設としてのあるべき姿、役割や機能、サービス、管理・運営等を考える必要がでてきた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

● 公民館地域運営推進室の中央公民館内設置
 公民館をどのように運営することが望ましいのかを検討するため、平成20年から平成22年にかけて公民館の運営のあり方等を行政と市民が同じ土俵で議論をし、報告書としてまとめたものを、庁内検討後、公民館のあり方指針として策定した。その後、指針に基づいた地域運営を行うために、上記推進室を設置し、地域運営の進行管理、庁内調整、地域自治組織等との調整などを行っている。

● 地域づくり学習支援事業

公民館職員としての基礎的知識や社会教育関係事業の企画・立案・実施に向けての技能等を習得し、公民館職員の資質向上を図るとともに、地区公民館の運営等が円滑に行えるよう各種事業を実施している。

- ・ 公民館と地域づくりの基礎研修会
- ・ 公民館で取り組むヒントを探す「はじめての世界農業遺産」
- ・ 地区公民館長、事務長・主任対象「力を発揮できる職場づくり研修」など

● 生涯学習拠点施設整備

市街地の中心地に、にぎわいの創出、生涯学習と地域コミュニティの協働による地域力の再創造を目指し、生涯を通じて楽しく学び交流することができるとともに、市民生活や地域のあらゆる課題に対応できるよう、「学びの拠点」、「つどい交流の拠点」とした施設を整備する。（令和4年度開館）



公民館のあり方ワークショップ



人材育成フォーラムでの話し合い

3. 取組による成果や効果

特徴的な取組による成果・効果

- 地域運営後、地区公民館の施設利用者数が増加した。
- 地域づくり学習支援事業をととして、住民自治力の向上のために、何が必要で、何をすべきかなどの意識へつながった。また、地区間・地域間の事業連携が促進された。
- 地域運営後の人件費について、財政効果があった。

これまでの取組全体による成果・効果

- 市民意識調査の「生涯学習の推進と施設整備」項目の満足度の向上（H22とH30との比較）

市民意識調査
生涯学習の推進と施設整備
満足度
46.5 → 47.62
(H22) (H30)

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学識者、社会教育、学校教育、家庭教育関係者の15名で構成する公民館運営審議会を年間4回開催
- 公民館事業を実施後、事業ごとの振り返りをし、次回への改善点等を議論し、多様な意見等を踏まえながら検証・改善を行っており、PDCAを意識した公民館運営を行っている。
- 地区公民館に指定管理者制度を導入する際、公民館利用者、自治会関係者、地域住民と意見を交換し、ともに考えをまとめ上げ、公民館のあり方指針の策定へと結びつけた。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

平成18年3月に1市6町が合併をし15年が経過した。これまで各地域で地域特性、実情に応じた個性ある生涯学習事業を展開してきており、今後も引き続き、継続させていくものもあれば、全市的に行うことで効率的効果的な事業であれば実施していくものもある。合併したとしても、その地域でなければならぬ事業が存在することから、基本目標（なまが、つどい、むすぶ、つくる、いかす）を踏まえた地域性を活かした生涯学習事業を大切にしていきたいと考えている。



積み重ねた学びの披露

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

今後も、これまでの生涯学習事業、指定管理施設への必要な時の支援、公民館同士の情報共有と連携事業などを引き続き実施していく。それと同時に、中央公民館機能については、本庁舎近くの七日町西地区再開発事業の複合施設に移転することになることから、これまでの生涯学習事業を継続しつつ、「まちなか」（市の中心部）にあることにより、商店街との連携事業、近隣にある複数の学校の生徒利用、本庁舎が近いことによる各種団体の研修等の利用、お祭りや市民行事での活用等が想定されることから、市民交流をととしたまちのにぎわいの創出も考えている。



公民館が市民生活の一部！

生涯青春 ～夢と希望はいつまでも～

男鹿市若美公民館



若美大学5月学習会「健康運動教室」の様子



わかみウィークエンドサークル「ジオパーク・スイーツづくり教室」の様子

公民館の沿革・年表

- ・昭和31年 払戸村と潟西村が合併し、琴浜村が発足
- ・昭和45年 町政施行で若美町となる。
- ・ " 若美公民館の開設
- ・ " 若美大学の開設（高齢者の学び支援）
- ・昭和52年 若美コミュニティセンターを新設し、公民館活動の拠点となる。
- ・平成17年 (旧)男鹿市と合併し、男鹿市となる。

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 若美大学5月学習会「健康運動教室」(高齢者教育)
令和元年5月に開催した5月学習会の様子(写真左上)。学ぼうとする意欲と熱意に満ちた学生45名が参加した。介護予防を目的とした「健康運動教室」では、足腰への負担が少なく、体力に自信がない方も取り組みやすいように、ゆっくりとした動きや椅子に座っての運動を行った。自宅でも簡単に、また継続的に健康づくりができるように、ストレッチや運動方法などを学んだ。
- わかみウィークエンドサークル「ジオパーク・スイーツづくり教室」(青少年教育)
お菓子づくりを楽しみながら、同時に男鹿のジオパークについて学びを深めようと、男鹿市内の小学生44名が参加した。水あめやチョコレート等を使い、溶岩や岩石に見立てたスイーツを形づくり(写真左下)、石や岩は何からどうやってできたのか、その性質を学んだりしながら、楽しく学習に取り組むことができた。

1. 都道府県名	秋田県	3. 公民館対象人口	5,000人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	男鹿市	4. 建物設置年月日	昭和52年7月13日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 16人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 47人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 8,030 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	<input type="checkbox"/> 講演会、展示会等		合計 8,093人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人	<input type="checkbox"/> 職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 <input type="checkbox"/> 職員のうち社会教育士の数 0人	<input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 3人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (若美コミュニティセンター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (南北約20kmに広がる地区の中心部に位置しアクセスしやすいため、青少年から高齢者まで世代を問わず利用されている。特に、健康づくりに対する意識が高く、サークル活動などは活発に行われている。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 若美コミュニティ推進協議会 (市民憲章推進)

男鹿市若美公民館

OPEN 9:00~21:00
TEL 0185-46-4109

H P
SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 高齢者の学びを支援するための講座「若美大学」は、60歳以上のシニア世代を対象として昭和45年に開設された。当時から高齢者の社会参加が大きく叫ばれており、そうした情勢の打開策の一環として開設された。
- 急激に少子高齢化が進み、人生100年時代といわれる現代において、心の豊かさや生きがいを求める住民が増えている。当館では、そうした方々が生きがいをもち、充実した暮らしができるよう支援するために、新しい知識及び技能を習得する学習の場、並びに参加者同士の交流の場として「若美大学」（年11回）を開催している。参加者同士が、互いに親しみ、助け合いながら、熱心に学習に取り組んでいる様子が伺える。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【主催講座「若美大学」（高齢者教育）】

昭和45年度から続いている高齢者を対象とした公民館事業「若美大学」。

年に11回、仲間が集い、互いに親しみ、助け合いながら現代社会に対応できる知識や知恵を育み、健康で生きがいに満ちた生活を送るため、文化、経済、社会、健康等について楽しみながら学習している。参加者は、講座の名称から「大学生」と位置付けられ、4月の開講式から各学習会、3月の修了式と年間計画が立てられている。各学習会の開催日程は、主に「午前の部」と「午後の部」の2部構成となっており、テーマは、健康や郷土、世代間交流、移動学習等、様々な内容となっている。学習会を円滑に実施する目的で、学生代表者10名で構成された「運営委員会」が設けられており、委員が積極的に運営に関わることで、事務局である公民館と学生間で連携体制の構築が図られている。学習会は、運営委員会で決定した年間計画に基づき実施されている。入校年限は、大学4年制が年間3回以上の出席により進級し、大学院2年制、研究生(永年)へと続いていく。

令和3年4月1日現在、77名の学生が在籍し、活発な活動が行われている。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、令和2年度の若美大学は開催を中止した。



令和元年度若美大学開講式の様子



令和元年度若美大学6月移動学習会「男鹿市・館山崎ジオサイト」を見学

3. 取組による成果や効果

- 高齢者が定期的集い、互いに交流しながら体験学習等を行うことにより「生きがい」を感じて、心豊かに健康な生活を送るためのきっかけとなっている。
- 年1回、日頃の学習成果を発表し合う「学習成果発表会」を開いて、学生および職員間の交流を行い、相互理解を深めている。
- 学生と幼稚園児等が世代間交流を行うことにより、両世代の心の成長が期待できる。
- 健康維持・増進のため、自らの健康に注意を払う人が増え、また助け合いの人間関係が構築されているため、他者の健康状態についても気遣う人が増えた。



幼稚園児との世代間交流会の様子

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 10名の学生代表者を委員とした「運営委員会」を設置し、各学習会の振り返りや課題等を協議する場を設けている。参加者である学生の意見を踏まえ、課題や改善点等を洗い出し、次年度の学習会がより一層充実したものとなるように努めている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

急激な少子高齢化、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、人とのつながりや関係の希薄化が顕著になっている。そうした現状を打開するため、地域住民の交流の場として、全ての人が気軽に、安全・安心に利用できるように、清潔で明るい公民館づくりに努めるとともに、環境整備においても積極的に美化運動に取り組んでいる。



玄関口の花壇（環境整備）

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

人生100年時代ともいわれ、元気に活動しているシニア世代が増える中、心身の衰えや生きがいを失い、孤立化している高齢者も増えている。地域住民の「つながり」や交流がコロナ禍以前よりも強固なものとなるよう、関係団体や学校、福祉機関等と緊密に連携を図りながら、事業を展開していきたい。



若美コミュニティセンター



市民学校「防災キャンプ」



男性チャレンジスクール

公民館の沿革・年表

- 昭和23年 4月 飯坂町公民館設置
- 昭和26年 11月 飯坂町公民館が全国優良公民館
文部大臣表彰
- 昭和39年 1月 飯坂町が福島市に編入合併
- 昭和42年 4月 飯坂公民館移転市民センター併設
- 平成元年 10月 飯坂公民館移転
- 平成17年 2月 飯坂学習センター開館
- 平成24年 2月 民間人館長登用
- 令和元年 11月 福島県教育委員会表彰

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 市民学校「防災キャンプ」
震災を知らない子供たちを対象に災害に対する心構えと実践を学んでもらうことを目的に平成29年度から実施。空き缶と牛乳パックで炊飯する「サバイバルめし」体験等を行った。
- ふるさと学びカレッジ「男性チャレンジスクール」
団塊の世代の男性をターゲットに平成27年度から実施。リタイア後の男性の生きがい探しと地域とのつながりの場を提供している。

1. 都道府県名	福島県	3. 公民館対象人口	20352人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	福島市	4. 建物設置年月日	平成17年2月28日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	30台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (〇〇地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2273人 <input type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 33213人	<input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計	35,486人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 7人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人)	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 8人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (福島市中学生ドリームアップ事業)	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (福島市役所飯坂支所)) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (幼稚園・保育所3園、小中学校8校、高等学校1校、飯坂方部女性団体連絡協議会、飯坂方部青少年健全育成推進会、飯坂方部体育協会連絡協議会など)				

福島市 飯坂学習センター

OPEN 9:00~21:00

H P <http://www.city.fukushima.fukushima.jp/gakushuucenter>

T E L 024-542-2122

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 公民館事業・講座の参加者は、年々固定化が進み、相対的に女性の割合が高く、男性の参加者は少ない傾向が続いている。男性を対象とする単発の講座（料理教室）を開講しても、継続しての参加や施設利用にはつながらなかった。
- 団塊の世代の大量退職の時期を迎え、現役をリタイアした男性の生きがいづくりや現役時代にはなかなか持つことの出なかった地域とのつながりづくりの事業を企画することで、男性シニア層の新たな生きがいづくりや地域参加へのきっかけづくりにより、健康で充実したセカンドライフの一助としてもらうとともに、新たな利用者層の掘り起こしを図った。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【ふるさと学びカレッジ「男性チャレンジスクール」】

【表彰要綱 2（4）③（多様な利用者の参加促進のための学習環境の整備）】

上記の課題から、主に団塊の世代を中心とした男性を対象とする学習機会を提供することで、リタイアを機に職場内の人とのつながりを失った方たちが、新たに地域の人たちとのつながりを持ち、新たな生きがいをもつことで、健康で充実した生活を送るための一助とすることを目的に、平成27年度から実施している。

学習内容は、初めて参加する方が気軽に、一度参加した方が継続して参加できるように、参加者へのアンケート結果を基本として、地域内に数多くある史跡をウォーキングを兼ねて巡ったり、飯坂の歴史についての学習や簡単な体操、料理教室など多岐にわたるプログラムを準備している。

参加する方々の年齢層も60歳代から80歳代まで幅広く、楽しみながら交流を深めている。現在は参加者が15名ほどであるが、シニアの男性をターゲットとした講座自体が少なく、市民全体を対象とする講座の男性参加率も低いと、今後も男性が気軽に学習活動ができる場を提供する機会として継続していきたい。



料理教室



館外学習

3. 取組による成果や効果

【ふるさと学びカレッジ「男性チャレンジスクール」】

- 施設利用者の増加（男性参加者の増加）
- 男性のシニア世代の生きがいづくりや住民同士のつながりの創出
- 地域の歴史や地域の魅力を発見したり、地域課題の解決等に関する学びを通して、参加者の地域づくりへの関心が高まった。

【これまでの取り組み全体による成果・効果】

- 男性のセンター事業への参加をきっかけに、地域住民の交流が活発となり、住みよいまちとしてまちの魅力が高まった。



写真撮影教室

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 町内会関係者、学識経験者等9名で構成する運営審議会を年6回開催。
- 活動ごとの振り返りや課題について議論、多様な視点からの意見や感想をいただきながら検証、改善を実施している。
- 運営審議会でもいただいた意見等はできる限り事業に反映し、よりよい館運営に役立てている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

市民ひとりひとりのライフステージに応じた多様な学びの機会を提供することで、市民自らが地域運営の担い手として学びの成果を生かすことができる生涯活躍の地域づくりを推進する。地域の誰もがいつでも、気軽に施設を利用できる環境を作ることによって市民同士の「つながり」づくりの拠りどころとなることをめざす。



飯坂総合文化祭&子どもまつり

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 社会情勢の変化や新型コロナウイルスの影響により、人と人のつながりが希薄となっている。「まなび」を通して地域の人たちが充実した生活を送り互いに「つながりあう」ことでこの地域で生活するすべての人が地域に誇りをもって「住んでよかった」と思えるような、魅力あるまち、住みよいまちづくりにつながる活動を展開していきたいと考えている。



飯坂総合スポーツ祭



秋の遠足



民謡クラブ

公民館の沿革・年表

昭和29年 川崎村と関平村が合併し、泉崎村公民館開所。
 昭和31年 川崎：関平公民館報「土」[あぜ道]創刊
 昭和48年 泉崎村中央公民館開館式
 平成元年 県道拡張のため中央公民館取り壊し同月泉崎村農村環境改善センターを仮事務所とする。
 平成23年 3月11日東日本大震災発生（2館全壊）
 平成24年 2施設新築（公立社会教育施設災害復旧補助） 令和元年福島県教育委員会表彰「功績顕著な団体・施設」

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 公民館主体事業「成人学級」
 民謡クラブ、カラオケクラブ、押し花クラブ、歴史探訪クラブ、絵手紙クラブの5クラブで活動している。毎回楽しく、和気あいあいと受講しており、待ち遠しいとの声が多い活動です。
- 公民館協力団体「鳥峠自然を守る会」
 年間を通した環境整備では、村民が安全に登山できるよう草刈りやゴミ拾い、トイレの清掃や管理、花壇づくりなど会員が協力し進めており、自然植物の保護や樹木の表示、看板の設置にも力を入れ、子どもたちにわかりやすいよう整備しています。

1. 都道府県名	福島県	3. 公民館対象人口	6182人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	泉崎村	4. 建物設置年月日	平成元年2月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 852人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 1484人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 143人（ ）				合計	2,479人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 3人					
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（令和2年度 開館日数 358日）					
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> 自由記述（ ）					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 （ ）					

西白河郡泉崎村中央公民館

OPEN 8:30~17:15
 TEL 0248-53-2258

HP <https://www.vill.izumizaki.fukushima.jp/page/dir000496.htm>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

●余暇時間の増大や高齢化の進行など社会環境の変化は、村民の生活様式や意識、学習意欲などに大きな影響をもたらしている。●本館は以前から地区小学校と連携ができていたが、逆に小学校との接点が少ない世帯は、公民館活動への関心が低いことが課題であった。さらに、昨年度より新型コロナウイルスの影響により活動の縮小されてしまった。しかし、団体の「鳥峠の自然を守る会」では感染防止を行ったうえで、小学校の教育課程に位置づけた、自然観察会を村のシンボルである鳥峠で行っており、子どもたちは郷土愛を育み、指導する会員も新世代の会員加入も増えている。また、高齢者の「成人学級」も5つの教室に分かれ先生の指導のもと生きがい学ぶ機会を得ている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【生涯学び活躍できる環境を整える】

●成人学級(公民館主体事業) 上記の課題から、学ぶ機会のない高齢者の方々に、1 心身の健康を保ち日常生活に役立てる。2 教養を深め、趣味を豊かに生きがい高める。3 学級生相互の親睦を深め、社会的能力を高める。4 地区のリーダーとして地域活動を推進する。を目標に開講されている。5つのクラブに分かれ、趣味学習として民謡、カラオケ、押し花、歴史探訪、絵手紙を受講する。月に1回の開催であるが、常に出席率は98%と公民館事業の中で一番の出席率である。その他に遠足と研修があり、人気の一つとなっている。

●鳥峠の自然を守る会(公民館協力団体) 地元「鳥峠の自然を守る会」と連携して小学校や幼稚園、住民を対象に自然観察会等を数多く実施し、ふるさとの自然に触れ、豊かな感性と郷土愛を育てている。新型コロナウイルス感染状況により中止となったが、毎年「かたくり祭り」を実施し、村民の交流の場を広げ、地域の活性化を推進している。樹木の表示や看板の設置、清掃活動などの環境整備も会員の主体的活動となるよう公民館が支援している。会員の高齢化に伴い、新世代の会員の加入もあり、会員数の増加とともに会の活性化も図られている。



歴史探訪クラブ



鳥峠の自然を守る会

3. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果(成人学級・鳥峠を守る会)】

公民館活動を通じてできた村民同士のつながりが公民館を通して行政へのつながりとなり、村行政への協力および、理解が深まった。教室に参加できなかった人たちにも伝えたいという声があった。子どもたちは自然に触れ、豊かな感性と郷土愛を育んだ。

【これまでの取組全体による成果・効果】

子どもから大人高齢者までの世代間交流が進むとともに、住みよい村として、村の魅力が高まった。

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

●学識者や自治会関係者、学校長等15名で構成する公民館運営審議会を開催。公民館の現状や課題、活動ごとの振り返りや次回への改善点等を議論、多様な意見等を踏まえながら検証・改善を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館だけでは難しいことも、行政機関や関係団体等を巻き込みながら、連携協働する道を探ることが大切である。日頃から行政、福祉機関、高齢者福祉と繋がり、いざという時に互いが助け合うことのできる関係性ネットワークの構築が大切である。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

新型コロナウイルス感染症の影響により、公民館を取り巻く環境は大きく変わりました。ステイホーム、3蜜を避ける等今までにない状況です。さらに少子高齢化、地域のつながりの希薄化等、様々な問題が山積みしています。社会の中で孤立しがちな人々なども含めた、全ての人が生涯にわたって主体的に学び続けることのできるよう、中央公民館の機能を強化し、生涯学習指導推進体制を確立に努めます。また、住民の自主的、組織的活動を推進するとともに、多様な学習ニーズに応えられる学習機会の拡充に努めます。



第二期鳥峠村教育振興計画



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

従来の公民館講座の受講者は、シニア世代の割合が高く、子育て世代などの若い世代が少ない傾向があり、より幅広い世代の市民の参加が課題となっていた。平成18年の合併以降、旧市町にあった笠間・友部・岩間の3つの公民館がそれぞれに講座の企画や募集し、運営を行っていたことから、令和2年度に「かさま志民大学」として各公民館をキャンパスと見立て、3館合同での企画運営に変更した。講座の内容についても、県内大学や企業などとの連携により、より質の高い内容を目指し、あわせて講座で学んだことを地域に生かすことのできる内容を加えた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

令和2年度より従来の公民館講座を「かさま志民大学」としてリニューアルした。（「志民」とは志を持って学ぶ市民の意）令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大により、一旦全講座を中止となったため、動画配信による「かさま志民オンライン講座」を開始した。

オンライン講座では、地元産の野菜を使用した「免疫力UPクッキング」や「おうち時間で気軽にストレッチ」などコロナ禍における市民の健康維持につながるものや、レジ袋有料化に伴う「風呂敷ハンカチ活用術」など、社会の流れを捉えて企画しながらコンテンツの充実を図っている。

小学生を対象とした「かさま子ども大学」では、食品ロスや森林資源を生かしたものづくりなどSDGsに対する理解を深める内容を取り入れて実施している。

また「サマースクールチャレンジ」では国際理解を深めることを目的として、笠間市国際交流員による笠間芸術の森公園を会場に「遊んで学ぼうイングリッシュ」を実施した。



遊んで学ぼうイングリッシュ



風呂敷・ハンカチ活用術
（オンライン講座）

3. 取組による成果や効果

特徴的な取組による成果・効果

平成30年度から「学校支援ボランティア養成講座」として実施してきた「あなたが伝える笠間の民話」では、地域の人材を笠間の民話を語る語り部として養成し、市内各小学校においてボランティアとして活動した。

これまでの取組全体による成果・効果 「あなたが伝える笠間の民話」

平成30年 市内11小学校 23学級 ボランティア参加数 45名

令和元年 市内11小学校 25学級 ボランティア参加数 51名

令和2年 新型コロナウイルス感染拡大のため活動は中止 公民館定期利用団体として発足



あなたが伝える笠間の民話

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

公民館の運営状況や各種事業計画や実績について、笠間市公民館運営審議会（令和2年度は4回開催）において報告を行うとともに、審議会からの意見聴取を行っている。また、教育行政に対する透明性を確保し、市民への説明を行うことを目的として、笠間市教育委員会外部評価委員会を開催し、公民館を含む教育委員会事業の点検及び評価を実施し、必要に応じて事業の見直しや改善を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

オンラインを含む講座の内容について、笠間焼などに代表される地場産業や農産物など地域資源の活用や地域人材の発掘に努め、「笠間らしさ」にこだわって企画するよう心がけていくとともに、防災や子育て支援など行政としての課題や市の施策に沿った内容のものを取り入れ、市民や子ども達にも参加しやすく、わかりやすく伝えられるような内容になるよう工夫して実施している。



地域おこし協力隊員による農産物

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

子育て世代の公民館講座受講者が少ないことから、保護者はヨガ、子ども達は英会話など親子が同じ時間に別な会場で受講できる講座や、市内の児童生徒に一人1台タブレットが配布されたことを受け、親子でプログラミング学習などICTを活用した内容を積極的に取り入れていきたい。実践で行うものとオンライン配信で受講できるもののバランスを考慮し取り組んでいきたい。



ロボットプログラミングに挑戦！



中学生が講師として地域住民に講義



各種PRリーフレット

公民館の沿革・年表

- ・平成19年 河内町が廃止され宇都宮市へ編入合併
旧河内町役場を「河内地域自治センター」として業務開始
- ・平成28年 河内地域自治センターと河内生涯学習センターを併合し、河内地域自治センターを新築
- ・平成29年 河内生涯学習センター・河内地区市民センターに改組

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- いいき河内発見講座～「中学生がどうしても伝えたい”かわち”の魅力」～の様
令和3年5月に河内地区の古里中学校3年生の33名が5グループに分かれ、中学生の視点から見た自分たちの住むまちの魅力を調べて、「PRリーフレット」を作成し、**寸劇等を交えた地域住民向けの講座を開催**
- PRリーフレット
古里中学校の3年生（取材時は2年生）の全生徒が地域へ出向き、調査研究の成果として5テーマを紹介

1. 事務所名	栃木県	3. 公民館対象人口	35056人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	宇都宮市	4. 建物設置年月日	平成28年3月14日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	不明	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (〇〇地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 582人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 73083人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計 73,665人			
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任 9人 (職員のうち社会教育士の数 0人)	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 11人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 自由記述 ()	<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 学校	<input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター		
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> その他	河内地区まちづくり協議会, 古里中学校, 魅力ある学校づくり地域協議会	

宇都宮市河内生涯学習センター

OPEN 8:30~17:15

TEL 028-671-3202

HP niva.tochigi.jp/kurashi/shogaigakushu/cente

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

●本センターでは、地域住民の学習意欲の高揚と生活の向上に資する事業の推進、家庭教育支援の充実と地域連携・協力した教育活動の推進、地域理解を促進する講座と学んだ成果を活動につなげる仕組みの充実を重点項目として講座を企画している。こうした中、学んだ成果を活動につなげる仕組みの充実を図るため、新たな取組の一つとして地区の中学校と連携・協力を図りながら企画した講座を開催した。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【いきいき河内発見講座（地域資源を活用したまちづくり）】

●地域資源を活用し、若年層をはじめ、幅広い世代の多くの住民が今一度自分の住むまちに“目を向ける”、“関心を高める”さらには“誇りを持つ”郷土愛の醸成を目的とした講座。

●古里中学校で昨年度、新型コロナウイルス感染症によって中止になった社会体験学習「宮っこチャレンジ」（職業体験）の代わりに、地域の良さをPRするリーフレット作成。中学生が自ら関係各所と調整し、精力的な取材で地域への理解を深めた。

●古里中学校での取組が本センター講座の趣旨である“郷土愛の醸成”と重なったことから、中学校や地域団体と連携を図りながら、共同で講座を開催。

●古里中学校でグループ毎に作成したリーフレットを同校関係者で選考し、入選した5グループを講師として招き、内容を発表。

●今後も地区の産業や豊かな自然、人材など地域資源を活用した事業を構築し、地区内にある3中学校の学生交流や仲間づくり、地区の未来を拓くたくましい河内っ子（かわちっこ）の育成に向け、取り組んでいく。

【河内地区ガイドブック「かわち」発行】

●河内地区まちづくり協議会楽しいプロジェクトガイドブック編集委員が中心となり、河内地区のあゆみや文化財、自然などについてまとめた河内地区住民向け情報紙を発行。



中学生がどうしても伝えたい“かわち”の魅力



河内地区ガイドブック「かわち」

3. 取組による成果や効果

【いきいき河内発見講座（地域資源を活用したまちづくり）】

●地域の歴史や文化、地域の情報等の講座においては、高齢者のみの参加であったが、40代、50代など幅広い年齢層の参加につながり、定員いっぱい約50人の受講者を集めた。

●中学生が直接現場を取材して作成したPRリーフレットを活用し、寸劇やクイズ等を織り込み地域の資源を分かりやすく工夫しながら説明したことで多くの参加者から高評価をいただいた。また、PRリーフレットは、駅や図書館、生涯学習センターなど55カ所に配布した。現在、河内地区に住んでいる方が自分の住むまちの魅力を見直す機会となるのはもちろんのこと、これから河内地区の住民になる方々へまちの魅力を発信するための有効なアイテムとなる。

【河内地区ガイドブック「かわち」発行（地域資源を活用したまちづくり）】

●「いきいき河内発見講座」に主体的に関わっている地域団体のまちづくり協議会でもガイドブックを発行している。前述の講座を通して、世代を越えた情報交換の場や住民同士の学びの機会を創出することで、それぞれが「自分ごと」として様々な視点から地域を学び、理解を深めていた。



入選したPRリーフレット

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

●参加者にアンケートを実施し、講座自体の評価、多様な意見等を踏まえながら、検証・改善を行っている。

●協力団体においてもヒアリングを実施し、検証・改善を図っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

身近な生涯学習の拠点として様々な学習活動やまちづくり活動を支援するとともに、社会環境が急激に変化する中において、社会の要請に対応する事業や人間力の向上、家庭・地域の教育力の向上に資する事業に取り組んでいる。



サギソウの鉢植え講座

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

●地域の魅力を発見できる事業の充実を図る。

●地域の人材等を活用した講座を実施するとともに、地域で活躍できる人材の育成に努める。

●仲間づくりや交流の場を提供し、人と人の絆づくりを推進する。

●人間力の向上や家庭教育力の向上に資する事業を積極的に展開する。



河内地区 地域ビジョン



歴史ファンでいっぱい秋間学



多世代交流の場 秋間納涼祭

公民館の沿革・年表

- ・昭和30年 秋間連絡所開設（旧秋間村役場跡）
- ・昭和39年 秋間史跡保存会発足（事務局となる）
- ・昭和51年 秋間公民館開設（移転した秋間小跡）
- ・昭和55年 高齢者学級・婦人学級の開設
- ・平成2年 秋間公民館移転（新規造成した現在地）
- ・平成2年 ふくしふれあい21運動モデル地区に指定
- ・平成15年 優良公民館群馬県教育委員会表彰
- ・平成20年 高齢者学級・婦人学級をふれあい教室に
- ・平成30年 「みんなの秋間学」開講

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 連続講演会「みんなの秋間学」
地域の伝説、工芸品、遺跡、偉人、自然など、地域の歴史と文化をテーマに年間5回の連続講演を実施している。**新旧住民の交流**や世代を超えて地域住民が学び合う関係を築くとともに、**住民が地域に誇りと愛着を持つ郷土愛**を育てている。
- 第27回秋間納涼祭の様相
地域の連帯を深めるために、住民による秋間ふるさと会が結成され、途絶えていた夏祭りを復活させた。幼児から老人クラブ会員まで**多世代が一堂に会する数少ない交流の場**である。

1. 都道府県名	群馬県	3. 公民館対象人口	3311人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	安中市	4. 建物設置年月日	平成2年3月29日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1035人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 377人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 6785人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	<input type="checkbox"/> 生涯学習作品展（地区文化祭）		合計 8,197人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人）	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 （職員のうち社会教育士の数 0人）	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 4人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他（秋間地区生涯学習推進委員会）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他（自由広場（約900㎡）） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（自由広場では、保育園の運動会や老人クラブのグラウンドゴルフが行われる。）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 秋間小学校、秋間中央保育園、秋間史跡保存会、秋間ふるさと会納涼祭実行委員会、秋間松寿会(老人クラブ)連合会など

安中市秋間公民館

OPEN 9:00～21:00

H P http://www.city.annaka.lg.jp/kyouiku_shougaiakushu/

TEL 027-382-4969

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 平成9年の北陸新幹線安中榛名駅の開業後、数百戸の新住宅地が造成され県外から多くの移住者が転入してきた。
- 秋間納涼祭や秋間史跡保存会の活動など、**新旧の住民の顔が見える**活動が実施されるようになった。
- 主婦層向け家政教室(縫物・編物・料理等)が公民館事業の中心となっていたため、**幅広い年齢層向**や**男性、移住者**が参加しやすい事業が必要であると考えた。
- 地域には日本武尊が馬に乗り飽きて休憩した地であることから「飽馬」→「秋間」となった伝説をはじめ、海洋生物化石、縄文時代・平安時代の遺跡、秋間古窯跡群、安中城城砦群など、**多くの伝説や史跡**が残っており、秋間史跡保存会が当館を拠点に保存活動を行っている。

2. 取組内容 (力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など)

【連続講演会「みんなの秋間学」(地域資源を活用したまちづくり)】

- 新旧の住民がつながり、知的好奇心を満たす場として、地域を知り、人を知る連続講演会「みんなの秋間学」を企画した。
- 平成30年度は、これまで秋間史跡保存会がまとめた地域の**歴史的資源**を活用し、「あなたはまだアキマを知らない！」をテーマに、連続講演会を実施した。令和元年度は、県外から移住してきた住民の中から、**魅力的な経歴の持ち主**(お城の博物館長、ウスキーのアンバサダー、元消防署長、トンネル設計者)を講師に招き、「みのりが丘の宝もの」をテーマに連続講演会を実施した。
- 令和2年度はコロナウイルス感染症対策のため、対面での講演会は中止し、公民館だよりで「秋間の地名の謎」をテーマにまとめ、回覧等により地域住民に提供した。



ウスキー伝道師の秋間学

【秋間小学校と南房総市和田小学校との交流会(子どもの体験活動)】

- 上州下秋間字館の百姓の家に生まれた赤穂四十七士の忠僕元助が、南房総市和田町で祀られていることが縁で、和田小学校と「海の子と山の子の交流」を行った。秋間史跡保存会が中心となり交流を後押しした。(南房総市和田小学校が閉校し平成28年度で事業終了。)



南房総市和田小との交流

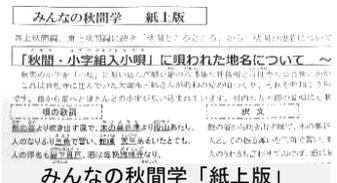
3. 取組による成果や効果

【特徴的な取組による成果・効果「みんなの秋間学」】

- 男性や移住者の参加が約5割となり、**住民同士の交流や世代を超えて学び合う関係**を築きかけとなった。(H30参加者:131名・R1参加者109名)
- 地区以外からの参加等により公民館利用者が増加した。
- 令和2年度は、紙面(公民館だより)で地域に発信したことにより、事業について多くの住民に周知することができた。

【これまでの取組全体による成果・効果「秋間史跡保存会」】

- 秋間史跡保存会と南房総市向西坊元助保存会との民間交流が礎となり、両市の**友好都市協定、災害時相互応援協定**へとつながった。令和元年東日本台風災害時には被害の大きかった南房総市に安中市から職員を派遣し、災害時の協力関係を深めた。



みんなの秋間学「紙上演」



地域交流の核となる秋間公民館

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 各団体からの推薦者・学識経験者20人で構成される秋間地区生涯学習推進委員会総会や理事会で意見を伺ったうえで事業の方向性を決めて実施する。
- 講演会・主催教室後のアンケートを参考、**P D C Aサイクル**を念頭に置いて次年度の基礎資料にする。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

地域の歴史が日本史、世界史ともつながっていることを住民に伝承していく。公民館に無縁だった**男性や若者も呼び寄せる魅力ある事業**を開き、伝統文化も支援する。また、地域団体と連携して**住民の心をひとつにつなぐ事業**を継続し、豊かな自然を慈しみ**地域に誇りと愛着を持つ郷土愛**を育むことで、**ずっと住み続けたい地域**を目指す。



若者が伝承する獅子舞

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

様々な職業・年代の住民が集い、学ぶ場として、「みんなの秋間学」講演会は**土日の開催も検討**し、さらに多くの住民に地域の魅力を伝えていきたい。新型コロナ対策として、**集まらなくても学べる「紙上演」**を公民館だよりで毎戸配布したい。また、令和3年度から地域の小学校がコミュニティ・スクールを導入したので、**公民館が地域の核**となり、地域と学校をつなげていきたい。

住民みな知り合い！人々の絆をつないでいくために！

東吾妻町 東公民館



家族や住民同士の交流【東地区運動会】



地域の文化に触れ伝承する【あづま文化・芸能発表会】

公民館の沿革・年表

- 昭和25年 東村公民館設置（翌年：5分館を開設）
- 昭和33年 第1回東村公民館祭(現:あづま文化・芸能発表会) 開催
- 昭和34年 大塚館長 文科省社会教育功労賞 受賞
- 昭和37年 第1回村民運動会(現:東地区運動会)開催
- 昭和53年 東村文化協会発足
- 昭和59年 「あづまかるた」完成(翌年第1回かるた大会開催)
- 平成18年 東村と吾妻町が合併し「東吾妻町」となる
- 平成26年 東公民館長に東支所長兼務で就任
- 平成27年 優良公民館群馬県教委表彰 受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

◀ ●管内5地域の対抗戦「東地区運動会」。家族で楽しみながら、一方で地域住民が顔を合わせて交流する機会となっている。住民同士が絆を深め、住民みな知り合いとなって、様々な地域課題を解決していくための素地を養う機会といえる。

← ●幼児から高齢者まで、住民の日々の学習成果を発表する「あづま文化・芸能発表会」。こども園や学校と連携して企画したり、住民が講師となって子どもが学習した内容を発表したりしている。時代の変化に合わせ、住民のニーズに応じた発表会を常に目指している。

1. 都道府県名	群馬県	3. 公民館対象人口	1830人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	東吾妻町	4. 建物設置年月日	昭和25年10月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (〇〇地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 335人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 130人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 50人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 760人 (文化・芸能発表会、地域かるた大会・練習会等)			合計	1,275人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 2人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人)	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 2人		
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (【旧村役場庁舎 現町支所】図書室・(漫画家) 富永一郎漫画廊・ホール・会議室併設)			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 東吾妻町立東こども園 ・ 東吾妻町立東小学校 ・ 東吾妻町立東吾妻中学校 ・ 読み聞かせ読書グループ「ポプラの会」

東吾妻町 東公民館

OPEN 8:30~20:00

H P <http://www.town.higashiagatsuma.gunma.jp/www/contents/1527810131741/index.html>

TEL 0279-59-3111

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

【要因・背景】 従来、多くの主催事業に各地区から多くの住民が参加していたが、**住民のライフスタイルの変化により、住民同士の交流が減り、参加者が減少したり、事業縮小の要望が出されたりしている**。一方で、従来どおりの参加者もあり、公民館としての役割が問われている。

【地域課題】 **少子超高齢化が進み、地域人口は減少**。また町村合併による予算面での自由度も減少してきている。

【住民ニーズ】 多様なニーズがある中で、個々のニーズに対応できる小回りのきく事業体制が求められている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【「あづま文化・芸能発表会」～文化活動の成果披露～(学習成果・世代間交流)】
公民館設立以来56年以上継続して開催している事業。5つの分館を中心に、住民が自主的、自発的な活動として行い、公民館施設を中心として開催し、地域住民が1年間取り組んだ文化活動の成果発表の場として、さらに**住民の交流の場**となっている。また、管内の保育所、こども園、小学校と連携、協働をすすめ舞台発表や書道、絵画の作品展示をしている。盆栽クラブの作品展示、食生活改善推進連絡協議会の軽食提供等、各団体が工夫した発表を行い、住民の楽しみとなっている。



あづま文化・芸能発表会(幼稚園児)

【「東地区運動会」～体力の向上、健康増進～(健康づくり・世代間交流)】

地域住民の親睦を目的に、合わせて体力の向上、健康増進のために開催している。管内5分館(地区)の対抗競技である。**住民が一堂に会し、20種目、延べ1,300人の選手が参加し、家族や地域の絆を深める貴重な機会**である。



わんぱくkids(マスカみ取り)

【「わんぱくkids」～みんなであづまっ子を育てよう～(子どもの体験活動)】

地域の小学生を対象に体験活動を実施。**地域の大人が講師やボランティアとなり、地域教材を活用した、子どもの体験活動を支えている**。地元名産魚のマスカみ取りや、そば打ち、まんじゅう作りなど、子どもたちが様々な体験をつうじて、地域理解や郷土愛を育むよう努めている。地域学校協働活動として**地域住民の活躍の場**ともなっている。

3. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果】

(あづま文化・芸能発表会) ● **住民個々のニーズやライフスタイルに対応できる、個人参加形式**に一部したこと、これまで参加していなかった住民が参加する姿が見られた。

(東地区運動会) ● 住民が一堂に会す貴重な機会、**顔を合わせてレクリエーションスポーツが楽しめた**。

(わんぱくkids) ● **地域の子とも地域の住民と顔見知りとなり、絆をつくり、さらに子どもの地域理解や郷土愛の育成が図られた**。

【これまでの取組全体による成果・効果】

● 子どもも大人も、地域住民が互いに交流し、生涯学習活動をととして地域住民の一体感が増した。



子育て世代住民同士の交流促進
('わんぱくkids'にて)

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

【従来からの分館長会議を活用した事業のPDCAサイクル】

管内には本公民館を中心として、行政区内に5分館が設置されている。各分館長は、**各区長が兼務をしており、地域住民のニーズを把握しやすい仕組み**である。各分館は例月会議を行い、さらに本公民館にて**3回の分館長会議を開催し、住民ニーズを踏まえた実施事業の改善等を協議し、公民館運営審議会に反映させたり、地域全体で次年度への取組につなげたりしている**。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 幼児から高齢者まで、郷土「あづま」を大切に住民の育成をめざし、生涯学習を推進。
- **住民同士の交流、つながりを深めるための事業を開催し、交流拠点としての使命を果たす**。



多くの住民が集う事業づくり

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

● 地域の文化財や自然環境を知らない世代を中心に、史跡や名勝を学びながら、**参加者同士の交流を促す講座を開催し、その保護や継承を図りたい**。

● 家庭教育支援を念頭に、子育て世代が興味をもつ趣味的な内容の講座を開催し、**同じ世代同士の交流促進**を図りたい。



住民による自然保護活動
「ホテル保護の会」



①夏休み子ども公民館ボルダリングの様子



②大宮南公民館内の清掃&除草活動の様子

公民館の沿革・年表

昭和28年11月	大宮南地区文化祭スタート
昭和55年 3月	大宮市立大宮南公民館 新築オープン
10月	大宮南地区大運動会スタート
昭和60年 7月	子育て支援どんぐりスタート
平成 2年 7月	会食サービス「いっぽの会」発足
平成 9年 5月	みなみ花クラブ（花ボランティア）発足
平成13年 5月	さいたま市立大宮南公民館と改称 大宮南公民館連絡協議会発足
令和 3年11月	大宮南公民館文化祭と改称

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

①ボルダリング教室

本事業は、地元企業との共催で東京オリンピックの開催が決定した年から継続して実施している。高さ約4mの壁を登っていくが、登り切った子どもたちは達成感と自信に満ち溢れている。未来のオリンピック選手が輩出されるかもしれないという期待も年々膨らんでいる。

②館内清掃&除草作業

年2回実施する除草作業には毎回地域の人が40人以上集まっている。各自治会会長、体育振興会も参加してくださっており、また、遠方から参加してくださるサークルもある。地域の人々の公民館への愛情を感じる花いっぱい、感謝いっぱいの清掃活動である。

1. 都道府県名	埼玉県	3. 公民館対象人口	10647人	5. 来館者のインターネット接続環境	有
2. 市区町村名	さいたま市	4. 建物設置年月日	昭和55年3月25日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	1台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者 ()	<input type="checkbox"/> その他 ()		
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 580人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 15126人	<input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計	15,706人
	<input type="checkbox"/> その他 0人 ()				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人	<input type="checkbox"/> 兼任 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 4人
	(職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人	職員のうち社会教育士の数 0人)			
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算	<input type="checkbox"/> 委託金	<input type="checkbox"/> 自治組織等予算	<input type="checkbox"/> 寄附等	<input type="checkbox"/> その他 ()
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (大宮南公民館連絡協議会)		
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動	<input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂	
	<input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画	<input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援	<input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援	
	<input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用	<input checked="" type="checkbox"/> 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	
	<input type="checkbox"/> ボランティア養成	<input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (さいたま新都心にほど近く、新しい住民や若い住民が比較的多い地域にある公民館です)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学	
	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	<input checked="" type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関	
	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> その他	
	()				

さいたま市立大宮南公民館

OPEN 9:00~21:30

TEL 048-641-4980

HP <https://www.city.saitama.jp/omiya/001/001/005/002/index.html>

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- かねてから地元企業との連携の必要性を模索する中、長年地域の人たちに親しまれている地元企業が所有する、大宮南公民館に隣接するボルダリングジム施設の協力を得ることが出来た。ボルダリング講座を計画する最中に、東京オリンピックの開催が決定し、競技種目に「ボルダリング」が新たに加わったことから、事業名に「2020東京オリンピック新競技」と冠を付けることで、東京オリンピックへの機運醸成にもつながると考えた。
- シニア世代に偏りがちな公民館事業に、「若年層の参加や参画を促すこと」「公民館に目を向けてもらう」ことが重要と考えた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

- 「地域の拠点として、地域に喜ばれる、地域とつながる公民館」を具現化
【2020東京オリンピック新競技ボルダリングを体験しよう！（子どもの体験活動の充実）】
ボルダリング教室は、2018年から続いている事業であるが、毎回応募者数が多く抽選となり、子ども達からのニーズの高さを感じている。専属コーチが指導するため、分かりやすい指導をしてもらえると子ども達や保護者の満足度も高く、登り切った子どもたちは、達成感と自信に満ち溢れている。ボルダリング教室を通じて公民館と地域の方々（特に若年層と子育て世代）とのつながりが一層広がったと実感している。



ボルダリング教室

- 令和3年度はさいたま市誕生20周年であるため、その記念となるような事業を前年度より企画【「大宮南地区 今昔物語」～地域の20年を振り返って～（伝統文化の継承）】
事業名を「大宮南地区 今昔物語」とし、本地域の20年間を振り返る座談会を企画した。企画段階から、本地域に愛着をもち、長年大きな貢献をされている方々から様々なアイデアをいただいたり、自治会連合会のご厚意で看板の手配をしていただくなど、地域住民による手作りの記念事業を実施することができた。日頃から公民館事業への御理解と御協力をしてくださる地域の方々に感謝の気持ちを込めた恩返しの実業として企画したが、一層地域の人とのつながりの大切さを感じた取り組みとなった。



大宮南地区今昔物語～どじょうすくい～

3. 取組による成果や効果

- 【各活動による成果・効果（2020東京オリンピック新競技ボルダリングを体験しよう！）】
・本事業の大きな目的である若年層にも「公民館に目を向けてもらう」、そして「地元（地域）との新しい連携」について、大きな成果があったと感じている。
・企業側のホームページにも事業の様子が掲載されることで、大宮南公民館に興味を抱いた子育て世代の方々に、他の様々な事業に参加していただけるようになった。
・地域を代表する他の地元企業との連携を進めることにもつながる可能性があり、新たな地域活性化のための公民館地域連携事業の一助ともなり得る。



ボルダリング教室

- 【これまでの取組全体による成果・効果】
地域社会を意識した主催事業等を行うことで、事業終了後に自主活動団体の立ち上げを支援する機会を得ることができ、自立した地域住民の学習活動を活性化・継続化させることができた。

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・事業の参加者や事業関係者の感想や意見を集約
 - ・大宮南公民館連絡協議会や利用者懇談会での意見集約
- 以上の機会において感想や意見の集約を行い、公民館職員同士で情報を共有したり、課題解決策を話し合ったりすることで、次回開催時や事業の計画に活かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ～地域の人と人をつなぐ架け橋としての公民館の役割～
- ・利用者の要望に耳を傾け、「できない」ではなく、「どのようにしたらできるか」を考えられる公民館
 - ・利用者ファーストのスタンスを継続し、「地域の拠点」として、地域に喜ばれる公民館
 - ・新たな地域資源の発掘と活用



花ボランティアの皆さん

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

「地域との連携の充実」が、本公民館に与えられたミッションである。そのため、今までの取組の成果や課題を検証しブラッシュアップしたり、地域住民のアイデアを取り入れ公民館と地域とが一体となり、新しいことに果敢に挑戦していく。またe公民館（講座のオンライン配信）の継続と近隣の施設と連携した「出前公民館」（対面講座）との両立を目指していく。



地域住民との話し合いの様子



令和元年度の七夕かざりの様子

公民館の沿革・年表

- ・昭和57年 上柴公民館開設
- ・昭和60年 上柴地区七夕飾りコンクール開始
- ・平成22年 キララ上柴（公民複合施設）に移転

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

上柴地区七夕飾りコンクールは、公民館が開設されてしばらくして始まり、36年の歴史を誇ります。体育室を会場に、屋内での七夕飾りが特徴で、高さ10m近くの20本もの竹が並ぶ様子は壮観です。公民館が商業施設と公共施設の複合施設に建て替えられ、その3階に移ったことにより、コンクールのために竹を3階まで運ぶことが必要となりましたが、大人数の手で運びあげ、この取り組みを継続してきました。

1. 都道府県名	埼玉県	3. 公民館対象人口	18964人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	深谷市	4. 建物設置年月日	昭和57年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 357人 <input type="checkbox"/> その他 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 43273人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計	43,630人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人	<input type="checkbox"/> 職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人	<input type="checkbox"/> 職員のうち社会教育士の数 0人	合計 4人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（アリオ深谷の3階に位置する公民連携複合施設で利便性が高い）	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> その他（行政サービス・パスポートセンター、ふるさとハローワーク）	<input type="checkbox"/> 学校	<input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター	
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> その他	（上柴西幼稚園、上柴東小学校、上柴西小学校、上柴中学校、東都大学、自治会連合会上柴支会、上柴地区社会福祉協議会、上柴地区青少年健全育成会、上柴婦人会、老人クラブ、民）

深谷市上柴公民館

OPEN 8時30分～22時00分 H P -
TEL 048-572-9001 SNS -



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・上柴地区は、昭和40年代から始まった区画整理で誕生したニュータウンで、多くが移り住んできた住民によって構成される。
- ・新たなまちに越してきた子どもたちは、まだ地域にふるさとという意識を持ちにくかったと推測される。
- ・深谷市の旧市街地（中山道）では、江戸時代から続くとされる深谷七夕まつりが行われていた。
- ・公民館の開設と同時期、子どもたちのふれあいの場と住みよいふるさとづくりのために「ふるさと上柴まつり」が始まった。これと同様の趣旨で、自分の地区における新たな七夕の行事が始められたと推測される。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【上柴地区七夕飾りコンクール（地域資源を活用したまちづくり・子どもの体験活動）】
地区の自治会の子供会及び幼稚園が手作りの竹飾りが、体育室を会場に3日間展示され、恒例行事として、地区住民が鑑賞や投票に訪れます。

屋内で七夕が展示されることが特徴で、高さ10m近くの20本もの竹が並ぶ様子は壮観

手作りの飾りに限り、既製品ではない、各子供会がアイデアや工夫をこらした飾りも魅力
来場者による投票によって、得票数により優秀作品が決定されます。

公民館が、商業施設と公共施設の複合施設に建て替えられ、その3階に移ったことにより、竹を3階まで運ぶことが必要となりました。自治会、公民館の文化部員を中心に人力で運び上げます。

令和2年度は、コロナ禍のため中止となりました。

しかし、従来の実施方法で行うには、飾りづくりを自治会館等に集まって行われること、飾りつけ作業時には混雑するなど、感染防止対策が難しいため、令和3年度は、各家庭で作ったものを持ち寄る方法にするなどの見直しを行いました。

また、竹の高さは低くなりますが、より多くの人に見てもらえるよう、複合施設にある立地を生かして、商業施設の協力の下、店内の催事場を会場とする準備を進めました。

最終的には、会場は公民館ロビーに変更となりましたが、新しい生活様式下における運営



コンクール会場を俯瞰



来場者が鑑賞・投票

3. 取組による成果や効果

・近くに住んでいても、普段はなかなか会って話す機会も少ない住民同士が、飾りづくりを通じて、交流が深まる。

・工夫をこらした飾りを作り上げる達成感や、仲間、自治会での連帯感が醸成される。

・子どもたちは、願い事を短冊に書くなど飾りづくりに関わり、また来場して七夕飾りを鑑賞することで、思い出づくりとなり、ふるさと意識が醸成される。

・平成28年から、コンクール終了後には、飾りが深谷七夕まつりの中山道の会場で再度飾られることが始まった。より誇らしい意識が醸成される。



飾り付け作業の様子

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・学校、地区関係団体、有識者等で構成する公民館運営審議会を年2回開催し、効果や結果の検証、計画内容を審議
- ・地域関係団体の代表者で構成する次年度事業検討会議により、現状や取組の結果、様々な意見等を踏まえ、課題や改善点等を議論し、翌年の計画へ反映させる。
- ・大きな見直しや改善は、必要に応じて、関係する地域団体等により構成する特別委員会を組織する場合もある。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館はサポート役であり、地域の人々が主人公となって活動できる場の提供が大切である。企画から運営、検証、改善など行事に一貫して参画いただくことで、行事に対して主体性が確保できる。



公民館文化祭

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

インターネットなどを活用した学習環境の変化、学びたい学習テーマの多様化、ITの進展による手段の多岐化などにより、公民館に対するニーズは変わりつつあると思われる。また、新たな生活様式におけるコミュニティ活動も変化していく。これらを注視し、新しいニーズに対応した社会教育施設の在り方や、提供すべきことを模索していきたい。



公民館・キララ上柴



根形公民館（外観）



ねがたオープンキャンパス（愛称：ねこまる）

公民館の沿革・年表

昭和62年4月 開館
 平成26年8月
 「ねがたオープンキャンパス」（愛称：ねこまる）スタート
 平成28年11月
 第68回千葉県公民館研究大会にて発表（ねこまる）
 令和元年11月
 千葉県教育功労者表彰 受賞
 令和2年1月
 ちば講座アワード入選（ねこまる）

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

根形公民館は、芸術文化活動に重点を置き、かつ、市内の公民館で唯一陶芸窯があることもあり、陶芸や絵画、書道といった文化系サークルが多く活動している。一方、館内には軽スポーツもできる多目的ホールがあり、テニスコート及び運動広場も隣接していることから、土日はスポーツサークルや少年野球が活動するなど、年間をととして老若男女が集う公民館である。そのような**ポテンシャルを最大限活用している事業が「ねこまる」**である。

1. 都道府県名	千葉県	3. 公民館対象人口	5759人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し	
2. 市区町村名	袖ヶ浦市	4. 建物設置年月日	昭和62年2月20日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数		
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 857人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 20231人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 484人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 0人（ <input type="checkbox"/> ）			合計	21,572人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人）			合計	4人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）					
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他（袖ヶ浦市は市民会館が公民館運営審議会を担当）					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 自由記述（ <input type="checkbox"/> ）	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）	<input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター	袖ヶ浦市内唯一の陶芸窯があります。		
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 博物館	<input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> その他	根形保育所、根形小・中学校、袖ヶ浦高校、ミライキカク、袖ヶ浦市レクリエーション協会、公民館登録サークル、袖ヶ浦市風保存会、袖ヶ浦市役所（環境管理課 他）、中央図書館、郷土博物館、ゆりの里、NESUPO 他	

袖ヶ浦市根形公民館

OPEN 9:00~17:00
 TEL 0438-62-6161

H P http://sodegaura_homepage/soshiki/negata-kominkan
 SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

平成26年に開催した袖ヶ浦市成人式後に、根形地区の新成人たちから「**自分たちが育った根形地区や公民館の活動に協力したい**」との申し出があった。地域の若者たちに地域・公民館活動に参画して欲しいという課題があった中で、この申し出をきっかけに、将来、地域を担う仲間となる青少年が集い、交流し、共に成長できる場と機会を設けるとともに、根形公民館を地域のキャンパスとするため、「**ねがたオープンキャンパス（愛称：ねこまる）**」と名付け、事業をスタートした。

「ねこまる」という愛称には、「**ねがたこうみんかんにあつまろう**」という意味が込められている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

■活動名

「ねがたオープンキャンパス（愛称：ねこまる）」

■運営方法

主催 根形公民館、N.O.C※

※根形地区にゆかりのある若者で構成されたグループ。

「N.O.C」は、「NEGATA OPEN CAMPUS」の頭文字をとり、命名した。

■活動内容

主に夏休み期間、根形小学校児童を対象に、N.O.Cや大人が、勉強を教えたり、一緒に遊んだりするなど、様々な体験活動の機会を提供している。

■運営の工夫

袖ヶ浦市成人式などの場を活用し、事業PRを行っている。また、現在は、地域の先輩後輩や公民館サークル、地域住民への声掛けを行い、事業運営のスタッフを確保している。



勉強を教えている様子



袖ヶ浦市成人式でねこまるPR

3. 取組による成果や効果

■ねこまるの成果や効果

①地域人材の育成・発掘の場づくり

②地域の多世代交流の場づくり

③参加者の成長・成果発表の場づくり

⇒公民館事業に高校生、大学生などの若者が参加するようになった。また、事業支援者・団体が増加傾向である。

N.O.Cから、「子どもたちとの交流をとおり、地元がさらに好きになった。地域の方々の協力に感謝している」という声が挙がっている。また、参加している子どもたちからは、「高校生になったら、N.O.Cとして企画及び運営に携わりたい」という声も出てきている。

現在は、事業に関わる地域の方々の「活動を支えよう」という機運も高まっている。



N.O.Cも公民館まつりに参加

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

①反省会の実施

事業終了後の当日にN.O.Cや公民館、支援者らと交え反省会を行ったり、参加者及びスタッフアンケートを実施。

②活動事例の紹介・報告

千葉県公民館研究大会などの場で活動事例を紹介し、市外に向けて情報を発信するとともに、広く意見を求めている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

①大切にしていること

公民館利用者や関係者、地域の方々の意見に「耳を傾ける」こと、「対話」をすること。

②大切にしている考え

上記①を実践し、信頼関係を築く。**公民館は地域に根付いてこそ意義がある。**



地域との対話を大切に

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

地域住民から「公民館を活用するぞ！」と思われるような公民館を目指したい。その実現に向けて、「**公民館と関わるとおもしろい、自分たちの実践したいことに取り組める！**」と実感できるように、今後も「ねこまる」を中心に地域を盛り上げていきたい。



若者の参画も目指します



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

市原市では他自治体と同様、少子高齢化が進んでいるが、本公民館が位置する五井地区（市の中心市街地）においても高齢化率は右肩上がりであり上昇している。（平成23年3月1日現在 五井地区人口 85,024人 高齢化率 17.4%⇒令和3年3月1日現在 五井地区人口 86,838人 高齢化率 25.0%）
 高齢化が進むとともに公民館に対する地域住民ニーズも変化してきている。具体的には、高齢者向けの講座のニーズの増加、世代間交流に関する事業に対するニーズの増加などがあり、これら住民ニーズに対応した講座や事業を展開する必要性を感じていた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

上記の課題の対応策として、高齢者や子育て中の親などを対象とした多数の講座を開設した結果、受講生が増加していった。また、駐車場の拡張や体育室の卓球台等の備品の整備を進めたことにより、会議室、体育室、図書室の利用者数は飛躍的に増加していった。

【創年ふれあい塾（高齢者の学びの支援）】

過去に、「シニアふれあい塾」という名称で実施してきた講座を、平成25年度から新たに「創年ふれあい塾」という名称にして実施している講座である。「創年」とは、「地域のために自らの力を発揮し、創造的に生きる大人（中高年）を意味する。」と講師からご教示いただいたことが切っ掛けで、当時の講座の企画・運営担当者が、新しい自分づくり・地域づくりなどの講座づくりに挑戦する意気込みから、講座の名称を変更した。

そして、この講座に参加した受講生を中心に、新たに「五井ふれあいサロン」講座を展開することになった。

【五井ふれあいサロン（地域住民の学習の成果と活用）】

ふれあい塾などの講座終了後、講座の内容や最近の出来事などを、受講生間で楽しく会話している姿が見られた。そこで、月に1回公民館の部屋を提供し、まずは気軽に楽しみながら会話してもらおうと始めたのが「五井ふれあいサロン」である。趣味、旅行、健康、地域課題や市政等について語り合うこともあれば、各々が得意とする知識をサロン仲間に披露することもあった。

次第に仲間も増えて活動範囲も広がってきたことから、講座生の力を地域のために活かすような仕掛けを考えた。例えば、公民館文化祭でカフェを開いたり、公民館の高齢者講座で発表を行ったり、地域の人のために講座を企画・実施したりもした。

また、取組の方向を確認するため、酒々井町で同様な活動をしている人たちと交流会を行うなど、一步一步活動の場を広げていった。

【おもちゃ病院（地域人材の活用と世代間交流）】

「おもちゃ病院市原」の協力で、月1回、地域住民が持ち寄ったおもちゃを、ボランティアが修理する活動であり、高齢のボランティアと利用者である親子の交流の場となっている。また、利用者に対して児童図書の紹介も行い、施設の利用促進にも繋げている。



研修先での集合写真



酒々井町の方との交流

3. 取組による成果や効果

【活動による成果・効果（五井ふれあいサロン）】

- ・文化祭でカフェを開くことで、看板づくり・会計・コーヒーの提供など各々のスキルを活かした活動ができた。また、お互いの持ち味を知り、講座生同士の仲間意識が強くなった。以降毎年文化祭でカフェを開いている。
- ・サロンで披露した知識や技能を高齢者向けの講座で、発表することもできた。その姿が受講生の刺激となり、更にサロンの仲間を増やすことやボランティアへの参加にも繋がった。
- ・地域のために介護保険講座等を企画・実施し、参加者も多く集まり五井の活性化につながった。
- ・市外の人たちとの交流を行うことで、改めて自分たちの街の課題に気付くことができた。

【これまでの取組全体による成果・効果】

- ・主催講座数 平成22年度35講座120回 ⇒ 23年度41講座125回：最多は28年度48講座142回
- ・主催延受講者数 平成22年度 4,543人 ⇒ 23年度 5,081人：最多は29年度 5,871人
- ・施設延利用者数 平成22年度 89,224人 ⇒ 23年度 92,632人：最多は29年度 100,418人（主催延受講者数含む）



文化祭でのコーヒーショップの様子

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・市では、社会教育者、学校教育関係者、学識経験者、家庭教育関係者等15名で構成する公民館運営審議会を年間3回開催。主に、主催事業に関する諮問・答申を行い、講座の企画・運営に反映している。
- ・公民館では、学識経験者、利用者代表、地区町会長、社会福祉協議会等各種団体19名で構成する公民館運営委員会を原則年間6回開催。会議では、前年度の事業報告や今年度の事業計画について協議し、様々なアドバイスや意見をいただき取り組みの改善に役立てている。
- ・館長会議のもと、総務部会、指導員部会を各々年間6回開催し、他の公民館（全9館）と情報交換などを行い事業計画や運営に役立てている。
- ・講座後に受講生からアンケートや直接意見を伺いながら、実施報告書を作成し、反省・改善点の確認を行っている。
- ・学校との協働活動に関する内容については、地域内の五井中学校区コミュニティーネットワーク委員会で行っている。また、社会福祉活動に関する内容については、五井地区社会福祉協議会で行っている。（館長が委員として参加）

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

職員は『目配り、気配り、思いやり』をモットーにしている。例えば、高齢者の方が多く来館されるが、困りごとはないか積極的に声掛けをしている。そのため、公民館の業務外の事も聞かれることもあるが、地域住民の一番近い窓口として力になれるように努めている。また、各講座の終了後にアンケート調査を実施することに加え、直接受講生に意見を伺うことで、的確にニーズを捉え、次の企画・運営に結び付けている。



6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

これまで以上に、地域住民に寄り添える存在として親しみを持ってもらえるように努力していきたい。コロナ禍などを経て、今後は更に、SNSなどを活用した情報発信が必要になる。その一方で、電話や窓口での対応も必要であるので、あらゆるニーズに対応できるようにしていきたい。また、地域連携をより深めるために、近隣の学校などのコミュニケーションを深め、若い世代にも公民館に親しんでもらえるようにしていきたい。





公民館の沿革・年表

- ・昭和62年 上鶴間公民館設置・開館
地域住民で構成される体育部・青少年部・広報部・利用団体懇談会を発足、第1回公民館まつり・地区体育祭の開催、高齢者学級の開講
- ・昭和63年 文化部を発足、第1回子どもまつりの開催
- ・平成11年 成人学級の開講
- ・平成24年 家庭教育事業の開催
- ・令和2年 神奈川県公民館連絡協議会優良公民館表彰受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

「全員でつくった人文字2020」地区体育祭の当日、ぶっつけ本番での人文字づくりでしたが、緻密な計算のもと、子どもから高齢者まで、号令に合わせて15分ほどで人文字が完成！地域がワンチームとなり、出来上がった人文字に、しばし皆が感動に酔いしれました。

「かみつるまてくてくマップ」皆でアイデアを出し合い、あらゆる年代の方にも未永くご利用いただけるよう、更にこのマップが人々の交流の懸け橋となるよう、使いやすさ、見やすさ、親しみやすさを念頭に作りました。



1. 都道府県名	神奈川県	3. 公民館対象人口	48069人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	相模原市	4. 建物設置年月日	昭和62年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 39人 <input type="checkbox"/> その他 0人 (※新型コロナ感染拡大防止のため多くの事業を中止した)	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 11667人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 381人	合計 12,087人		
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)	<input type="checkbox"/> 兼任 0人 (職員のうち社会教育士の数 1人)	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 12人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 16人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (公民館運営協議会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (キャリア教育、子どもの居場所づくり・学習支援)	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (大川小学校(石巻市)の保護者から譲り受けた“ひまわり”の種を毎年花壇で育てており、その“ひまわり”が本館のシンボルとなっている)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (谷口保育園、鶴園・南大野・谷口・鹿島台小学校、谷口・新町中学校、上鶴間高校、相模女子大学、女子美術大学、NPO法人学びサポート研究会、聴覚障がい者支援の会、地域活動支援センター権、高齢者支援センター、南保健福祉センター、消費生活センターほか)				

相模原市立上鶴間公民館

OPEN 09:00~22:00

TEL 042-749-6611

H P <http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kouminkan/kamitsuruma-k/>

SNS <https://twitter.com/kamitsuruma.k>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 自国開催の東京2020オリンピック競技大会に向けたPRや事前キャンプ招致など様々な取組が本市をはじめ全国的に展開されていた2019年、本館においても地域住民とともにオリパラの機運を盛り上げ、子どもたちが夢を持ち、公民館を更に身近に感じていただけるよう、オリパラに関連した事業を新たに企画・実施することとなった。
- 本館が所在する地域は、自然が多く古からの歴史を有する一方で、住宅・マンションが相次いで建設されるなど、古いものと新しいものが混在している。地域には歴史的な史跡や遺産が今なお多く現存しているが、新しい住民はもとより多くの住民に知られていない。また、公民館に子どもたちから、これ(石造物)は何？、読み方は？などの質問を受けることも有り、地域の歴史が子どもたちに受け継がれ、この地域が持続可能なふるさとになってもらいたいとの公民館職員の強い想いが背景となっている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【「夢ひろがる2020上鶴間」事業（オリンピック教育）】事業を住民主体で進めていくことを基本に、既存の公民館活動に関わる地域の人や小中学校と連携し、2019年、地域から盛り上げようと「夢ひろがる2020上鶴間」をキャッチフレーズに事業を立ち上げた。地域の一大イベントである地区体育祭において、自治会から自治会へと繋ぐトーチリレーや、地域の方々による全員参加の“2020”の人文字づくりを成功させ、皆が感動にひたった。残念ながら新型コロナによりオリパラは延期となったが、2019年から2021年までオリパラに抱く機運を醸成する事業を、地区体育祭でのイベントも含め計20回開催した。

【「かみつるまてくてくマップ」事業（伝統文化継承活動、地域住民等の学習の成果並びに知識及び技能の活用、学習グループやボランティア・指導者等の養成、地域学校協働活動の推進）】地域の史跡を住民自らが訪ね歩くことで、住み慣れた街のすばらしさを再発見し、郷土愛を深め、史跡を次代へ引き継いでいっきかけとなるよう、案内役となる「かみつるまてくてくマップ」を作成。まず本館から地域の方々や歴史サークルに声掛け、橋渡しを行い、有志8名による実行委員会を組織。委員会で改めて地域の歴史や史跡を学び、マップの対象年齢の決定、史跡の調査、散策コース等の選定、イラストの製作、本館HP「史跡めぐり」の充実とマップへのQRコード掲載など、委員が主体となって作成した。



地域をつなぐトーチリレー



真剣に地域の歴史を学ぶ面々

3. 取組による成果や効果

● 地域の拠点である公民館に三世代が一同に会し、「夢ひろがる2020上鶴間」事業・地区体育祭を成功させるという目的のもと、皆でアイデアを出し合いながら人文字づくりをおよそ520人もの人たちが成功させるなど、公民館事業を通じて地域の絆をより一層強固なものとする事ができた。また、公民館事業への2019年度の参加者は前年度に比べ約300人増加した。なお、2020年度については、新型コロナの影響により、事業を大幅に中止した。

● 完成したマップを活用したウォーキングや、実行委員による史跡解説(ガイド)の実施と新たなガイドの養成、小中学校でマップ掲載のQRコードを利用したオンラインによる授業や遠足の実施など幅広く活用されるなど、新たな事業の企画・実施に展開、公民館事業の活性化・多様化につなげることができた。マップ配布によりコロナ禍で自宅にこもりがちの方々に戸外での散策を楽しんでいただくなど健康づくりに寄与した。また、新聞等マスメディアに掲載され、地域がクローズアップされたことで、街の活性化にもつなぐことができた。



ガイドから史跡の由来を学ぶ

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

事業終了後、参加者からアンケートを収集し内容の整理を行ったうえ、事業の結果報告時に事業目標を達成できたかどうか、企画と運営に関する審査項目を5項目設け、評価を実施。結果を公民館運営協議会へ報告するとともに、事業の効果や内容を検証し、次の事業の企画につなげている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

情報化、国際化、家庭環境の変化により、公民館に対する期待と要求が多様化していることから、住民主体の原則を一層強め、「**学びの場 活動の場 つながる場**」として、住み良い地域社会をつくる活動を生み出すことが大切と考える。本館の地域は若い働き世代が多く、**学びの場**として「子育て事業」が求められていたことから継続的に事業を実施してきた。コロナ禍においても**子育て活動の場**を家庭とオンラインで**つながる場**とするなどICTの活用を積極的に進めた。



10年目を迎えた、親子で楽しむ子育て事業

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

地域住民の自発的な学習活動への支援や人材の発掘・養成・活用、世代・性別を問わず「**オール上鶴間**」をモットーに公民館活動への参加の推進、家庭・学校・地域の連携による教育力の充実など、地域ネットワークの核として事業を推進・展開していきたい。



地域の力を借りて夏休み学習室



公民館まつり（令和2年2月）でのYOKOUCHI！演奏風景



放課後宿題教室の様子

公民館の沿革・年表

- ・昭和49年 平塚市横内公民館開館
- ・昭和56年 神奈川県公民館連絡協議会優良公民館表彰
- ・平成22年 横内ふるさとカルタが完成。横内公民館まつりでカルタ大会を開始する。（以後、毎年実施）
- ・平成26年 横内地区町内福祉村による小学生を対象にした放課後宿題教室が公民館で開始
- ・平成29年 横内公民館まつりにて横内オリジナルソング「YOKOUCHI!」を初披露。（以後、毎年実施）
- ・令和2年 神奈川県公民館連絡協議会優良公民館表彰

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

毎年2月開催の横内公民館まつりは子どもたちの活動成果発表の場。中でも、横内地区の歴史や特色を歌詞に盛り込んだオリジナルソング「YOKOUCHI!」を、小・中学生と一緒に演奏し、大いに盛り上がる。（写真左上）

また、横内地区は横内公民館を核とした地域運営が特徴で、様々な地域団体が公民館を拠点に活動している。中でも、毎週金曜日に横内地区町内福祉村による放課後宿題教室が横内小学校全学年を対象に開催され、地域のボランティアの先生たちが指導している。（写真左）

1. 都道府県名	神奈川県	3. 公民館対象人口	8,078人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	平塚市	4. 建物設置年月日	昭和49年4月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	10台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 316人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 10877人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計		11,193人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)	<input type="checkbox"/> 兼任 0人 (職員のうち社会教育士の数 0人)	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 (職員のうち社会教育士の数 0人)	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 ()	合計 3人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (公民館運営委員会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (放課後宿題教室)	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (保育園、小学校、中学校、子どもの家に囲まれている)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他	(若草保育園、横内小学校、横内中学校、横内子どもの家、横内連合自治会、横内子どもサポートネットワーク協議会、横内地区町内福祉村、横内地区民生児童委員協議会など)

平塚市横内公民館

OPEN 9:00~22:00
TEL 0463-54-0118

HP http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/gakushu/page-c_01838.html
SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・横内地区は自治会館がないことから地域の大半の団体が横内公民館を拠点に活動。横内子どもサポートネットワーク協議会など、各種団体が公民館と連携して事業を展開するなど、公民館を核とした地域運営が行われている。
- ・横内公民館は保育園、小学校、中学校、横内子どもの家と近接し、周囲を田畑に囲まれていた長閑な環境であるが、横内地区には公園が僅かであることから、子どもたちの居場所となる空間が非常に少ないという課題がある。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【子どもが気軽に利用できる環境づくり（取組全体）】

従来、公民館内で子どもたちが自由に使えるスペースは狭く、子どもたちにとって公民館は他に行き場所がない場合に、やむを得ず使う状況であった上に、座るところがない状態だった。このため、館内の什器・物品配置等の見直しで談話スペースを広げ座席数を約2倍（10席→19席）へ拡充したほか、和室を開放。さらに、地域団体からオセロをはじめとする各種ボードゲームを寄贈していただいた。また、玄関を中心に花壇を新たに整備したり、毎年7月には福祉村の宿題教室と連携し、子どもたちの願い事を書いた短冊を公民館玄関に飾ったりするなど、子どもが親しみやすい空間づくりを進めている。

【地域一丸で事業を企画運営！防災キャンプ（防災）】

自治会や小・中学校PTA、青少年指導員、社会福祉協議会、公民館などが一丸となり、横内中学校を会場に小・中学生向けに防災キャンプを実施している。平日日中に大災害が発生した場合、小・中学生も防災の貴重な担い手であるとの考えに基づき、地域の防災訓練を兼ねている。

【子どもが主役の公民館まつり（子どもの体験活動）】

毎年2月に開催する横内公民館まつり。展示、芸能発表の大半は子どもたちが担い、地域の4分の1にあたる約2000人が訪れる年間最大の事業である。



子どもたちの短冊



公民館まつり 中学校吹奏楽部

3. 取組による成果や効果

【これまでの取組全体による成果・効果】

- ・放課後や夏休みなどは子どもたちが毎日30人～40人程度来館し活気が出た。
- ・子どもの来館増加により保護者世代の公民館利用も多くなり、公民館を中心に多世代が交流している。

【地域資源を活用したまちづくり】

- ・「横内ふるさとカルタ」、オリジナルソング「YOKOUCHI!」の制作と普及により子どもたちが地域資源について自然と学び、地域の伝統を継承する一助となった。
- ・オリジナルソング「YOKOUCHI!」は子どもから大人へ普及しつつあり、地域の一体感の形成につながっている。



横内ふるさとカルタ

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・自治会ほか各種地域団体の代表者、小・中学校長等で構成された公民館運営委員会を年4回開催。
- ・さらに公民館運営委員会よりも拡充したメンバー（近隣高校の校長などの参加）による横内子どもサポートネットワーク協議会の全体会議が年4回開催され、計8回の横内地区の全体会議で公民館等の各種事業や地域課題についてPDCAを意識した討議を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

社会教育法などで定められた公民館事業を推進するだけでなく、10年後、20年後の横内地区の持続的な発展を目指し、横内公民館を通じて横内地区に愛着をもってもらえるよう公民館を運営している。また、毎月発行の公民館だよりで子どもに関する記事を大きく取り上げ、子どもたちがどのような活動をしているのか地域にPRしている。



子どもが1面の公民館だより

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

コロナ禍によって開催直前に中止となったが、昨年度は民生児童委員や地域ボランティアと協働で、横内公民館と横内団地を拠点にした子ども向けのイベントを月2回開催する予定であった。アフターコロナを見据え、改めて企画・チャレンジしていきたい。

実施予定だった企画ポスター



みんなが輝く公民館は、みんなの輝く公民館

糸魚川市上南地区公民館



【放課後は公民館がみんなのヒミツ基地！】



【毎週みんなの喫茶店やっています！】

公民館の沿革・年表

- 平成17年 市町村合併により糸魚川市となる。
- 平成20年 公民館配置見直しで、上南地区公民館が誕生。
- 平成24年 放課後学習・見守りの場として「子ども学習教室」を開始。また、「上南大学」として各種講座を開設、軽運動やダンス・手芸等の事業を通じて学習意欲の向上に成果をあげている。
- 平成25年 地域づくり協議会発足。公民館が事務局となり、夏祭り・キャンドル祭りなど事業を共催している。
- 平成30年 協議会「豊かなむらづくり」農林水産大臣賞受賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- **子ども学習教室**：放課後に勉強できる場所を提供。勉強アリ、遊び時間アリ、**公民館による見守り活動**を兼ねており、今年で10年目となるが、高い学習効果が表れている。**公民館を居場所**として育った子どもたちが成長し、公民館や地域づくりに協力したり、保護者世代ともつながりができたりして新しい地域づくりに良い効果が出ている。
- **みんなの喫茶店**：地域づくり協議会との連携事業。包括支援センターの職員や、地域支援員も入り、地域のお茶の間として大変好評を得ている。

1. 都道府県名	新潟県	3. 公民館対象人口	657人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	糸魚川市	4. 建物設置年月日	昭和47年12月17日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	20台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (○○地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (上南地区公民館管理運営委員会)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 346人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3099人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 35人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()			合計	3,480人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人)			合計	3人
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (生涯学習推進委員会が、その役割を果たしている)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (地域からひな段飾り等を譲受け、季節毎に飾り、手芸成果を並べている。また、毎週喫茶店を開いて地域開放するなど、地域拠点となっている。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (上南地区地域づくり協議会、おひさま保育園、南能生小学校、能生中学校、権現荘、ぬながわ森林組合、上南地区区長会、能生地域活性化協議会、糸魚川市、新潟県振興局等)				

糸魚川市上南地区公民館

OPEN 9:00~22:00

TEL 025-568-2533

H P <https://www.city.itoigawa.lg.jp/dd.aspx?menuid=3857>

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 取組を進めた要因・背景 過疎化で人口減少となり、地区活動や地域内での交流も減少し、地域の中核となる存在が必要であった。平成23年度施設リニューアルにあわせ、常駐職員が配置されたことで、**生涯学習を通じた地域活性化**を目指し、地域全体で連携した活動が始まった。
- 地域課題・住民ニーズ 過疎化で活気が減少するなか、**学び活動を通じて老若男女誰でも参加でき、ゆるやかに交流する場**が必要になっている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【子ども学習教室(家庭教育支援)】

- 複式学級で、山間部で塾もない地域であるため、**子どもたちの学力向上と放課後の見守り活動**が必要だというニーズを受けて、学習教室が開始された。

【わくわく探検隊(子どもの体験活動・世代間交流活動)】

- 便利で豊かな現代において、体験する機会が減っている子どもたちに、**自然体験を通して「生きる力」をつけるための活動**をする必要がある。というニーズを受けて開始した事業。
- 地区・森林組合・学校・PTA・行政と連携し、森林整備体験や、川遊び・魚の炭火焼きの活動を行ったり、高齢者からは竹馬・かまどづくりなど伝統的な活動を学んでいる。
- このように、子どもたちの活動を通し、保護者や高齢者世代を巻き込み、多世代交流を活発にすることで、**地域の誰かが主役ではなく、みんなが主役**という活動をしている。

【みんなの喫茶店(健康づくり・少子高齢化社会・地域活性化)】

- 孤独になりがちな高齢者対策**として、毎週公民館で喫茶店を開催している。公民館に集まって、おしゃべりや脳トレなど楽しむなかで、公民館を「**おなじみの場所**」・「**災害時に安心して避難出来る場所**」と認識していただけるよう、工夫している。
- 喫茶店以外にも、地域づくり協議会と連携し、夏祭りやキャンドル祭り、花壇整備など地域を盛り上げるための活動を行っている。



みんなの協力で、伐採を学びました



学校・PTAと連携して川遊び体験

3. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果(子ども学習教室・子どもの体験活動)】

- 活動の結果、**毎日キッチンと宿題・自主学習をする習慣**が出来た。また、お互いに教え合う復習効果により学習の理解度もあがり、一体感が生まれ、**いじめ防止にも役立っている**。また、公民館での**見守り活動・体験活動を通じて保護者世代と繋がりが出来た**ことで、キッズダンス、ママーズダンスなど、若い世代の新たな活動が生まれている。

【これまでの取組全体による成果・効果】

- 青少年から高齢者まで、いろいろな世代が公民館に集い、**楽しみ・学べる事業を展開**することで、**地域全体に好奇心やチャレンジ精神が広がり、地域活力の向上**につながった。
- 公民館が地域の拠点となり、他団体・組織と連携したイベントが出来るようになった。



芸能祭で成果発表し、喜ばれました

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 公民館管理運営委員会を年1回開催 ●公民館を構成する地区の区長会で、毎月公民館について話し合っている。
- 地域内7公民館の会議（年3回）、公民館主事会議（年3回）を開催し、市職員・公民館職員で意見交換をしている。
- 事業開催ごと、公民館役員会議ごとに振り返りを行い、あわせてアンケート等による参加者の意見を集約し、次回開催に向けての改善を続けることで、**常にPDCAを意識した公民館運営**を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 人生100年時代を迎え、**いくつになっても訪れて楽しい公民館**であることを目指している。また、**学びを通じた楽しさ、出会いを大事にし、体験の風を起こしていこう**と考えている。
- そのために、地区や学校、介護支援センターなど**各種団体と連携をとり、情報を共有**してみんなの頼りになる公民館であるよう、職員一同つとめている。



高齢者サロン活動

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 今後も**世代を超えた交流**を行うなかで、**地域で孤立する人が出ないよう笑顔で見守り**、みんなから愛される、暖かい公民館を目指したい。
- 近年は災害が多く、毎年公民館に避難・宿泊しているので、**簡易ベッドづくりや炊き出しの練習など、中核施設として、さらに頼りにしてもらえ**る公民館を目指したい。



公民館もお祭りに協力



「長生学園」フラダンス



「サバイバルキャンプ」マウンテンパーク津南

公民館の沿革・年表

- 昭和34年 津南町公民館開設
- 昭和39年 長生学園の開講（高齢者学級）
- 昭和55年 津南町青少年育成町民会議開設
- 昭和60年 津南町公民館改修。津南町文化センター開設
- 平成10年ごろ サバイバルキャンプ開始
- 平成26年 苗場山麓ジオパーク認定
- 平成26年 長生学園創立50周年

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

【高齢者学級「長生学園」】（左上）

60歳以上を対象にした趣味クラブ活動事業です。参加者は、興味に合わせて様々な活動にマイペースで取り組んでいます。令和3年度で創立57周年を迎え、健康づくり、生きがいづくりの場となっています。

【サバイバルキャンプ】（左下）

津南町青少年育成町民会議と連携して開催しています。小中学生の異年齢集団で、3泊4日の自給自足のキャンプ生活を通して自然と親しみ、自らが成長する機会となっています。

1. 都道府県名	新潟県	3. 公民館対象人口	9200人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し	
2. 市区町村名	津南町	4. 建物設置年月日	昭和60年10月25日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者（〇〇地区まちづくり協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2853人 <input type="checkbox"/> その他 0人（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 5926人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 150人	合計	8,929人	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 <small>（ 職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人 ）</small>	合計 6人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（ ）					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 自由記述（ ）	<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 図書室 ）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 北部保育園・こばと保育園・わかば保育園・上郷保育園・ひまわり保育園・津南小学校・芦ヶ崎小学校・上郷小学校・津南中学校・子育て支援センター・NPO法人Tap・津南町青少年育成町民会議・津南町教育委員会・農と縄文の体験実習館なじよん				

津南町公民館

OPEN 9:00~22:00

TEL 025-765-3134

H P <https://www.town.tsunan.niigata.jp/site/kvoiku/kouminkan.html>

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

津南町は、新潟県の最南端の千曲川が信濃川と名を変える長野県境にあり、日本有数の豪雪地帯です。町の南西から北東に流れる信濃川と、これに合流する河川によって、雄大な河岸段丘が形成されており、2014年、津南町を含む苗場山麓地域は、日本ジオパークとしての認定を受けました。豊かな自然と人情味あふれる地域ですが、少子高齢化は深刻で地域コミュニティの縮小も懸念され、高齢者の生活の質の向上や若者の社会参加、次世代の人材育成が大きな課題となっています。そこで、町では、「健康で明るい家庭づくりに関する学習の推進」「芸術・文化・スポーツに関する学習の推進」「活力と潤いのあるまちづくりに関する学習の推進」「地域をとりまく今日的課題に関する学習の推進」の4つの方針を、生涯学習計画に打ち出しています。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【高齢者学級「長生学園」（高齢者の学びの支援と生活の質の向上）】

高齢者学級「長生学園」は、町内60歳以上の方を対象とした趣味クラブ活動事業です。社交ダンス、フラダンス、おどり、押花、手芸、書付、折り紙、絵手紙、カラオケ、バンドクラフトの10のクラブから成り、学園生は115人で、参加者それぞれが自分のペースで活動を行っています。令和2年度中は、各趣味クラブが月1～2回の活動を行うほか、全体会を6月～12月まで計4回実施（主な内容は、開閉園式、感染症対策講座、特殊詐欺被害防止講座、高齢者の交通安全講座など）して、参加者同士の交流を図っています。



長生学園「特殊詐欺防止講演」

【「ジオパークガイド養成講座」他（地域の特色を生かした人材育成）】

日本ジオパークの認定を受けた苗場山麓の地質（ジオ）・生態（エコ）・歴史文化（カルチャー）等のお宝を再発見し、その貴重な地形や地質、動植物、歴史文化を保全しながら、教育や防災、観光等に活かすことを目的に「ジオパークガイド養成講座」を開催しています。参加者は、トレッキングツアーや講義等とおし、自分の目と耳と足で、その魅力を体験し、学ぶことのできる講座です。



なじよもん「アンギン編み」

また、学校や町青少年育成町民会議、地域子ども会等と連携しながら、農と縄文の体験実習館「なじよもん」を拠点に、土器作り・アンギン編み・勾玉作り・わら細工・和紙作り・草木染め・陶芸などの体験活動を実施しています。さらに、サバイバルキャンプ（様式3-1に掲載）の開催などを通して、子どもたちの豊かな学びにつなげています。

3. 取組による成果や効果

【高齢者の学びの支援と生活の質の向上】

開園から57年目を迎える伝統ある取組で、コロナ禍にあっても歩みを止めることなく、安全面に十分留意しながら事業を継続できました。それだけ、住民のニーズが高いとも言えます。各講座は、趣味として楽しむことだけでなく、自らの特技としてさらに技術を磨き、上達の喜びや達成感等を味わい活動意欲が保持されています。また、同じ趣味をもつ仲間との交流は、参加者の生きがいにもつながり、高齢者の生活の質の向上に一役買っています。



ジオパークガイド養成講座

【地域学習や体験を通じた人材育成】

「ジオパークガイド養成講座」の受講者には、観光協会の「ふるさと案内人」を含めた認定ガイドへの道が開かれており、子どもたちや観光客に伝える認定ガイドの人数は着実に増え、住民への苗場山麓ジオパークに関する普及・啓発にもつながっています。また、「サバイバルキャンプ」では、小中学生時にこのキャンプを経験した若者がスタッフとして参加しており、貴重な人材育成・若者の活躍の場となっています。



サバイバルキャンプにて魚の処理方法

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

津南町では、平成10年より町長を中心とした生涯学習推進本部を設置し、具体的な計画の策定や取組評価については、教育長をトップとしたスタッフ会議や推進会議がその任に当たっています。さらに、公民館では、年に1度、町内12地区にある地区公民館の館長同士が集まり、前年度の活動の振り返りや情報交換、当該年度の活動予定などについて話し合う場を設けています。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

人員・予算の削減により、公民館だけで事業を行うのは年々難しくなっており、他の団体や他課等との協働体制づくりを大切にしています。日頃から、保育園・小中学校との協働活動を継続するとともに、NPO法人、町内ボランティアや青少年育成町民会議、地区公民館とのつながりを構築しネットワークを広げながら、町民のニーズや今日的な課題への対応に向け、より効果的な事業が展開できるように努めています。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

津南町の高齢化率は41.5%（令和2年12月末現在）と、非常に高い数字になっています。また、公民館を利用する人の固定化や地域コミュニティの縮小も懸念される状況です。そこで、町の生涯学習計画に沿いながら、町民が自ら生涯にわたって学び、生きがいを感じながら心身ともに健康に過ごすことができるように公民館としても地域コミュニティをつなぐ架け橋的な存在として、ニーズに合わせて新たな試みにも挑戦しながら事業を行っていきたくと考えています。

伝統行事を通して人と街の未来を育む

滑川市滑川東地区公民館



みんなの思いを乗せて海へ



ネブタにコロナ終息を願う

公民館の沿革・年表

- ・昭和46年 滑川東地区公民館開設
- ・昭和52年 現在の施設内に移転し、中央公民館と併設
- ・平成5年 中央公民館の移転に伴い、建物を改修
- ・平成8年 月2回の小学校5日制に伴う「子供のための公民館活動を開始」(手芸、陶芸教室等)
- ・平成11年 放課後児童クラブの受入れ開始(H28.3まで)
- ・平成24年 地元の伝統行事であるネブタ流しへ参加を開始
- ・令和元年 優良社会教育機関として富山県教育功労者等表彰受賞

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

●伝統行事「滑川のネブタ流し」の様様

写真は令和2年7月31日に開催された「滑川のネブタ流し」の様様。令和2年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、各団体から早々に不参加表明があり、開催は不可能かと思われた。しかし、地元の伝統行事を絶やしてはいけないという強い思いから、本公民館は、寺家小学校育友会 (PTA) 等の有志と協力してネブタ流しに参加した。ネブタ流しの由来には、仕事中に危険な眠気 (ねむた) を祓う意味のほか、ケガや疫病等の穢れを祓う意味も含む。

1. 都道府県名	富山県	3. 公民館対象人口	5311人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	滑川市	4. 建物設置年月日	昭和52年8月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	不明
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 () <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 91人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 9526人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 120人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()				合計 9,737人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア協力者 1人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 5人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (ふるさと教育、自治公民館の育成、男女共同参画、環境美化の推進)				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (市の中心部にあり、駅、ショッピングセンター、市民交流プラザ、図書館及び公園に隣接している)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (あずま保育所、寺家小学校、寺家小学校育友会 (PTA)、滑川中学校、地区社会福祉協議会、(株)WAVE滑川、地域の商店、ボーイスカウト滑川1団、滑川西地区公民館、早月加積地区公民館、男女共同参画推進員滑川東地区連絡会、健康づくり推進委員会、滑川市健康センター、滑川市教育委員会、滑川市立博物館)				

滑川市滑川東地区公民館

OPEN 9:00~17:00

H P <https://www2.tkc.pref.toyama.jp/kouminkan/info/sv/OraDtl.aspx?orgcd=0440&stdycd=00070813>

TEL 076-476-0706

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

毎年7月31日に、中川原海岸(地区内)で国指定重要無形民俗文化財「滑川のネブタ流し」という民俗行事が実施される。古くから、地元の各町内会が中心となって参加していたが、**参加者の高齢化**や**若者の地域活動離れ**等の影響により、担い手不足となり、**年々参加団体が減少**していった。一時は、ネブタが4基まで減り、伝統行事が廃れつつあった。そこで、本公民館では、地域の伝統行事を守り、次世代へ継承していくため、平成24年からネブタ流し保存会、地元の寺家小学校、寺家小学校育友会(P T A)等と協力して、小学生と一緒に行事で使用するネブタ(大松明)を作成し、ネブタ流しに参加することとなった。

2. 取組内容(力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など)

【滑川のネブタ流しへの参加(伝統行事の継承)】

ネブタ流しの参加者や参加団体が、年々減少していたことに危機感を持っていた。また、滑川市は当時「ふるさと滑川」に愛着を持ってもらうための「ふるさと教育の推進」を行っていた。そこで本公民館では、地元町内会のネブタ流し保存会、地元の寺家小学校、寺家小学校育友会(P T A)等と協力し、ネブタ流しに参加することとなった。現在では、公民館職員の指導のもと、寺家**小学校の土曜授業を活用**して、6年生は寺家小学校体育館でネブタ(大松明)作りに、5年生は輪飾りやヒトガタ(折紙人形)等の装飾作りに参加している。また、5年生は6年生が行うネブタ作りも見学している。例年、小学生の有志は、当日のネブタ流しにも参加している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、小学生の参加を見送ったが、今年度は再び寺家小学校と協力して実施する予定である。

【公民館行事には地域住民の協力が不可欠】

公民館行事には、地域住民の参加協力が必要となるが、年々人が集まりにくくなっている。また、5年前に本公民館から放課後児童クラブが移転し、子育て世代との接点が激減した。そこで、毎月の**公民館ニュース全戸配布**、**H Pによる積極的な情報発信**、**地元商店へのポスター掲示**等のP R活動を積極的に行ったり、各種団体と連携・協力して行事を企画・運営したりして、新たな関係性を築きながら、参加者や協力者の増加を図っている。



小学生と一緒にネブタ作り



みんなでネブタの装飾作り

3. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果(滑川のネブタ流し)】

- 小学校の土曜授業を活用することにより、多くの**子どもたちが地域の伝統行事を知り、体験する機会**となった。
- 次世代の担い手となる**人材を発掘、育成する機会**となった。
- 行事を通して、**ふるさと滑川への愛着が深まった**。
- **世代を越えて交流する機会**となった。

【これまでの取組全体による成果・効果】

- 公民館と地域住民の関係性が深まり、**他の行事への参加者や協力者も増加**した。



小学生とネブタ流しに参加

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 地区の住民から選ばれた公民館幹事(13名)に、各種行事へ運営ボランティアとして参加してもらい、月に1度、公民館職員と幹事による役員定例会を開催している。役員定例会では、幹事の体験や、行事の参加者から集約した意見等をもとに話し合い、**各行事や公民館の運営について検証、検討及び改善**を行っている。
- 年2回、市で公民館事業に関する内容について、公民館運営審議会を実施し、行事について意見を頂いている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

当地区では、行政主体の行事が多く、住民の自主性・主体性が徐々に失われていった。また、海、歴史や伝統に恵まれているが、それらについてあまり意識されず、街の魅力が忘れ去られていった。住民には、この**地区がもつ本当の価値に気づき、誇りをもってもらいたい**。それが住民の自信となり、街の元気へ繋がっていく。様々な行事を通して、この地域をもっと活性化していきたい。



ふるさとを歩き魅力を再発見

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

公民館にいつでも安心して人が集い、幅広い世代に行事へ参加してもらうため、恒例行事だけでなく、富山湾岸クルージング、ハロウィーン等の新たな試みにより、**子育て世代や転入者等の新規の参加**を促したり、夏まつり運営ボランティアとして中学生に参加してもらったりしている。地域行事を通して、**人と人との繋がりを作り、互いにあいさつし合える関係性**を育てていきたい。



夏まつりで地元中学生が協力

雄神の魅力を次の世代へ伝えよう！

砺波市立雄神公民館



とつべ行燈製作



雄神誌写真展

公民館の沿革・年表

- ・昭和24年 雄神村公民館を雄神村役場内に設置
- ・昭和28年 庄川町の誕生により町内の4公民館が統合
庄川町公民館雄神分館を設置
- ・昭和57年 庄川町立雄神公民館として独立
- ・平成17年 旧砺波市と旧庄川町の合併により砺波市立
雄神公民館と改称
- ・平成18年 「広報雄神」を創刊
- ・平成19年 第1回公民館祭りを開催
- ・平成29年 公民館祭りの前日に前夜祭を設定

左図・写真の説明など（PRポイントなども可）

- 青少年育成部会事業「とつべ行燈製作」の様相
ふるさと学習に力を入れており、子どもたちが楽しみながら地域の歴史や文化に触れられるような活動を行っている。この行燈は、地域での田祭りや観光祭にて練り回される。
- 公民館まつり「雄神誌写真展」の様相
昨年3月に、地域の人々で編さんした「雄神誌」が発行された。この本には、歴史や文化を次の世代へ伝えていくという思いが込められている。また、公民館まつりで雄神誌の写真を抜粋し展示することで、史跡や名所を広く知ってもらうことができた。

1. 都道府県名	富山県	3. 公民館対象人口	779人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	砺波市	4. 建物設置年月日	昭和57年11月10日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	50台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (○○地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (雄神公民館)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 735人 <input type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 0人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 9500人 (カフェや子ども塾等の居場所や、地域活動の拠点として)				合計 10,235人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 2人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (各種補助金)				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (集会センター内に事務局を構えている。館内には雄神カフェもあり、地区民の憩いの場となっている。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 雄神自治振興会・雄神地区森林振興会・雄神地区体育振興会・雄神楽天塾・雄神高齢者学級・婦人会・健康教室・庄友会・壮友会・青年会・雄神地区母親クラブ・雄神自遊塾・雄神子ども塾				

砺波市立雄神公民館

OPEN 8:30~21:00(要事前申込) H P
TEL 0763-82-5375 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・市内21地区の中でも3番目に人口が少ない雄神地区。高齢化率は42%余りで、市内平均である30%を大きく上回っている。**高齢化、少子化**の波が押し寄せる中で、地域の元気が失われることを防ぐためにはどうしたらよいか。地区住民が過疎化が進む雄神の現状を率直に受け止め、その中で**自分たちのできる活動**を進めている。その中心となっているのが雄神公民館である。
- ・一方で人口が少ないことのよさも多い。住民一人一人の顔が分かるので**一体感**が強く、行事にはたくさんの地区住民が**主体的**に関わっている。また、**時間も体力もある元気な高齢者**が多く、**地域活動の支え**となっていることも大きなよさである。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【公民館まつりの前夜祭を実施（既存行事のリノベーション）】

平成29年より、公民館まつり前日に前夜祭を設けている。にぎわい創出のため、当初は昔行っていた「盆踊り」を復活させる案が出たが、準備の負担が大きくなるため否決された。そこで、**公民館まつりの前夜祭を新たな形で行うこと**にした。会場には、飲食や歓談のスペースを設けるなど、老若男女の交流やにぎわい創出の場をつくることで、まつり当日に向けての気分を高める有意義な時間となっている。

【公民館まつりでふるさと学習（感染症対策と行事の両立）】

令和2年はコロナ禍により、例年のステージ発表は行わず展示が中心となった。そのことを逆手に取り、「未来につなげよう！ふるさとの歴史と文化」というテーマを掲げた。その目玉が、雄神神社の所蔵する大正・昭和・平成の大祭の様子が記録された合計5巻で長さが85mの絵巻物の展示である。また、同年3月に発行された雄神誌に掲載された史跡・名所の写真展も行い、**地区住民が雄神の歴史や文化に触れる機会**となった。

【ふるさと探訪歩こう会（地域への愛着づくり）】

6年目となるこの活動には「**自分たちの地区の魅力**を再認識してほしい」という思いを込めている。日頃見過ごしている自然や史跡をじっくり巡ることで、地域への愛着が深まる。地域の魅力を次の世代へ伝えるには地域を知ることが必要であり、その基盤となる活動である。



雄神神社絵巻展



ふるさと探訪歩こう会

3. 取組による成果や効果

【公民館まつりでの成果・効果】

- ・前夜祭は、既存行事の拡張ということで準備の負担は押さえつつも、ビアホールという取組は新鮮さがあり、住民の満足度も高いものとなった。
- ・令和2年のテーマ展示は、普段見ることのない神社の絵巻物を見る貴重な機会となった。文化財の活用という観点からも、人が多く集まる公民館まつりで展示を行いその存在を知ってもらうことは、意義のある取組である。

【これまでの取組全体による成果・効果】

- ・**行事運営に携わる地区住民の増加** ・**世代間交流**の推進 ・**自然体験機会**の創出



しいたけ栽培体験教室

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・自治振興会・自治会関係者やPTA等各種団体関係者11名で構成する公民館運営審議会を有する。
- ・総務・文化学習・広報・青少年育成・体育の**5つの専門部会**を地区住民が組織し、それぞれに蓄積されたノウハウを生かして**取組を検証**している。
- ・砺波市公民館連絡協議会での情報交換や研修会等に参加し、他の公民館活動も参考にしながら取組を行っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・子どもたちは、公民館の行事に参加した体験やその楽しい雰囲気は簡単には忘れない。子どもたちに「楽しい」とたくさん思ってもらい、**地域のよさや人の温かさ**を伝えていきたい。
- ・地域づくりのために自分に何ができるのか、自分のこととして考えるところから公民館活動が始まる。「**公民館のメンバーは、地域の皆さん一人一人である**」という考えを大切にしている。



庄川遊覧船

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

少子高齢化を止めることは難しいが、うまく付き合っていくことは可能だと考える。人口が減っている中、一人でも多くの地区住民が地域づくりのために集まることが活力となる。公民館まつり前夜祭のように負担をあまり増やさずできる取組を今後も行い、**人が集まりやすい環境**を整えたい。そして、楽しむことでつながりを深め、**世代を超えて地域の輪を育てていきたい**。



公民館まつり前夜祭



鞍月文化会館くらら



鞍月ウォークラリー 問題を解きながら回る参加者

公民館の沿革・年表

- ・昭和27年 鞍月小学校の一角にて公民館開設
- ・昭和29年 独立した鞍月公民館建設
- ・昭和31年 石川県優良公民館表彰受賞
- ・昭和56年 児童館併設公民館建設
- ・昭和60年 **団体連絡協議会を結成**
- ・平成16年 鞍月公民館が指定管理になる
- ・平成17年 くら月っ子見守り隊を結成
- ・平成24年 **鞍月公民館直江町に新築移転**
- ・平成26年 小中学校地域連携防災事業の取り組み
- ・平成30年 石川県優良公民館受賞(2回目)

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- 鞍月文化会館くらら(公民館・児童館・老人憩の家併設)
平成24年4月 南新保町から直江町に新築移転
敷地面積 1,785.13㎡ 延べ床面積 1,089.72㎡
総工費 4億円 **地元負担 2億円**
- 鞍月ウォークラリー 問題を解きながら回る参加者の模様
令和2年10月に開催した「鞍月ウォークラリー」の模様。コロナ禍における運動不足解消と校区の神社を巡って**先人達が築いた「くらつき再発見」**をテーマに、7つの神社をチェックポイントとして**ショットガン方式でクイズを解きながら約6.5kmコースを周遊する。**
参加者 154名 スタッフ 70名

1. 都道府県名	石川県	3. 公民館対象人口	11,234人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	金沢市	4. 建物設置年月日	平成24年3月24日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	20台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (鞍月公民館振興協力会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 480人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 17402人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,493人 <input type="checkbox"/> その他 0人 () 合計 19,375人				
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 3人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input type="checkbox"/> 自由記述 (エレベータを備えた弱者にやさしい建物)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ()				

金沢市鞍月公民館

OPEN 9:00~17:30

H P <http://www.spacelan.ne.jp/~kuratuki->

TEL 076-237-6446

SNS (FB) <https://www.facebook.com/kuratuki.kurara>



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど



公民館発足時の鞍月地区は、**400世帯あまりの農村地帯**で、昭和40年代に入って、行政などの大規模開発プロジェクトが施工され、石川県の基幹産業の中核となる施設や道路が多数建設された。それと同時に土地区画整理事業が進められ、**新しい住民が多く仲間入り**し、**現在では4200世帯を有する校区**となった。小学校の児童数も年々増加し、各種団体との連携が必要不可欠となり、公民館が活力ある事業の取り組みとして各種団体連絡協議会を立上げ、新旧住民の交流の場、情報交換の場、そして地域の良き伝統を今に伝える事業を打ち出し、事業を行ってきた。しかし、コロナ禍で校区ビック行事や体育祭、サマーフェスタ等が中止となった。このままでは、**コミュニケーションが希薄化し、さらに体と心の健康も脅かされていく**。そこで、**各部長をメンバー**として「コロナ禍でもできる公民館事業プロジェクト」に取り組むことにした。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【活気ある各種団体連携プロジェクト】

●鞍月サマーフェスタ

昼は子どもの部、夜は踊りの部の2部構成で町会連合会と17団体が一体化し毎年行っている。令和元年度は、オリンピック2020音頭に取り組み、大変な盛り上がりを見せた。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

●その他各種団体との連携事業

講演会、南無とせ節継承活動、防災活動

【コロナ禍でもできる公民館事業プロジェクト】

●鞍月ウォークラリー

コロナ禍における運動不足の解消と心のケアの面から、クイズを解きながら先人たちが築いた「**くらつき**」の良さと歴史再発見をテーマとして校区内を約6.5km周遊するウォークラリーコースを行った。記録に残そうと**鞍月史跡MAPを作成し全家庭に配布した**。

●コンテスト開催 → 鞍月秋の展覧会に展示

題材は、「**コロナ川柳**」・「**創作マスクづくり**」・**フォトde「鞍月の情景**」です。文化祭を中止せず、教室受講生の励みになればと思い、公民館を会場に展覧会を開催し、そこにコンテスト作品を展示した。また、観る楽しみ参加する楽しみを網羅し参加型コンテストを実施した。

【鞍月文化会館くらら ロビーの開放と教室の充実】

いつでも集える公民館として、**建設時に広いロビーを設け**、子どもから高齢者までが自由に利用できる場として開放している。一時利用を休止したがコロナ対策をして利用に努めている。



サマーフェスタ 踊りの和



ウォークラリー 問題に取り組む参加



コロナ川柳 展示の様様

3. 取組による成果や効果

・公民館新築移転により来館者数の増加

- ・公民館活動やサークル活動を通じてできた住民同士の繋がりが生まれている。
- ・団体連絡協議会の結成により、各種団体の情報交換の場の創出となり、そして地域防災の活力となり、さらには市への要望と実現へと繋がり、**安心して住みよいまちづくりへと繋がっている**。
- ・サマーフェスタは地域の子どもからお年寄りが相集う交流の場となり年々参加者が増えている。
- ・参加型展覧会の開催等、親しみある公民館での事業がコロナ禍での心のオアシスへと繋がっている。
- ・児童館・公民館の生涯教育講座の充実、学童保育の受け入れと共に**子育てしやすい校区として、まちの魅力が高まり**、小学校の児童数が増えている。



地域防災に取り組んでいる模様

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・学識経験者や自治会関係者で構成する公民館運営審議会を年2回開催
- ・各部会を通じて、公民館の現状や課題、事業の反省点、次回への改善点等を議論、多様な意見を踏まえながら検証・改善を行っており、**PDCAやOCDを意識した公民館運営**を行っている。
- ・地域学校協働活動に関する内容については、鞍月小学校運営協議会で行っている。(館長と育成部長が委員として参加)

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館単独では難しいことも、行政機関や企業そして各種団体を巻き込みながら、連携協働することが大切である。児童館併設ということもあり、日頃から児童館と連携を保ち、互いの助け合いが大切である。特に、公民館の必要性とボランティア活動の大切さを子ども達に伝える大きなチャンスとなるため、小中学生には、**体験活動を通した学びの機会を提供し**、思い出づくりに努めることが大切である。小学校・中学校・こども園等と繋がり、**いざという時に互いに助け合うことのできる関係性、ネットワークの構築が大切**である。



小学校2年生に公民館の役割について説明

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- ・コロナ禍の中で、**オンラインとオフラインを上手に組み合わせた事業**の展開、そしてSNSを利用した広報の充実を図り、社会的包摂の実現につながる活動と**持続可能な生涯学習**の展開をしていきたい。
- ・子どもから高齢者まで、地域の公民館として「いつでも学べる学習空間」を提供し、地域のランドマークとなるよう**開かれた公民館**を目指していきたい。



ZOOM配信を取り入れた成人式



あすなる劇団



健康ウォーキングクラブ

公民館の沿革・年表

- 平成13年 浦上公民館開設
- 平成25年 あすなる劇団立ち上げ
- 平成28年 健康ウォーキングクラブ立ち上げ
- 平成30年 浦上里おこし会30周年
- 平成30年 石川県優良公民館表彰受賞
- 令和元年 浦上朝市立ち上げ
- 令和元年 公民館だより300号発行
- 令和2年 野休み芸能祭立ち上げ

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

「あすなる里まつり」を通じて世代間交流が図られ、地域のコミュニティの推進と市内外の浦上地区の出身者が集いふるさとづくりが図られている。

平成25年に立ち上がった「劇団あすなる」立ち上げにより地域コミュニティ推進及び世代間交流が図られている。

浦上地区の特産品「浦上コンヤク」を通じて、生きがいがづくり、地域活性化を推進している。

平成28年に「健康ウォーキングクラブ」を立ち上げ、月2回の実施及び年1回の県内のウォーキングコース巡りを実施。

1. 都道府県名	石川県	3. 公民館対象人口	513人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	輪島市	4. 建物設置年月日	平成13年7月19日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1472人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 1813人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input type="checkbox"/> その他 1390人 ()				合計 4,675人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 2人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input checked="" type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (寄附図書設置) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (門前東小学校、門前中学校、老人クラブ連合会、婦人会、社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、小中学校PTA、地域の病院、防犯協会、交通安全協会他)				

輪島市立浦上公民館

OPEN 9:00~22:00 H P
 TEL 0768-42-0558 SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 地域には高齢者世帯が多く、全体で254世帯のうち、高齢者のみの世帯が138戸、空き家が30戸である。公民館事業・講座の参加者は、高齢者の割合がおのずと高くなる。次の世代（担い手）がおらず、おのずと企画する講座には若者の参加者は少ない。
- 公民館の講座は高齢者が多く、開かれる講座も単調になるため公民館活動のマンネリ化が課題であった。また、サークル活動のリーダーとなる方も何か新しいことは取り組みたいと思っているがどうしたら良いかが課題となっていた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

《地域と連携した公民館活動》「あすなるの里まつり」

● 農林資源を活用した地域おこしの組織として「浦上里おこし会」を立ち上げる。以後、農産物を主として地域おこしを実践している各地を訪問・視察を重ねる中で、そばやコンニャクなどの栽培などを中心とした地域おこしを目指す。公民館の農園では主としてそば、各農家ではコンニャク、耕作放棄地ではワラビなどの栽培を行い、それらの販売と浦上全地域を挙げての地域おこしと絆づくりに大きく寄与している。

「あすなるの里まつり」取り組み内容

・『劇団あすなる』の芝居

地域の有志が集まり劇団を立ち上げ里まつりで時代劇を中心に披露している。

・『農産物品評会』

約120点近くの農産物が並び、審査を行い等級を決め、等級が高い農産品を作った方に景品を渡すなど、地元の農産物を作るモチベーションに繋がっている。

・『里おこし会直営販売』

地元産のそば、特産のコンニャク、もち、焼きおにぎり、栗おこわ、各種漬物やジャムなどの加工品を販売。行列ができるほどの盛況を見せる。

《地域と連携した健康づくり》

● 転倒予防教室「いきいきクラブ」、高齢者の交流と親睦を図る「ぽっかぽかサロン」を通じて高齢者の健康増進及び地域の絆づくりに寄与している。



浦上朝市



いきいきクラブ

3. 取組による成果や効果

- 地域にある各種団体は、各団体ごとに、計画・実施・評価・反省の検証を行い、次の活動の充実につなげている。
- 検証の結果、活動内容の充実はもとより、事業の新規立ち上げにもつながり、多岐に渡る公民館活動が、地域住民に認知され、一層の公民館活動の充実と利活用に結び付いている。



特産品「浦上コンニャク」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 公民館が中心となり、結びつきの強い各団体と打ち合わせや相談を重ねるなど活動をコーディネートすることで、緻密な検証を行っている。
- 浦上公民館の審議会を年3回（8月、12月、3月）行い、公民館行事についての検証を行っている。
- 地域に所在する各団体に地域の取組や今後の課題等の調査項目を設けアンケート調査を実施。（588名分）
- ほとんどの方が活動への取組などを実施していることに満足しているとの回答があり、活動を取り組むことで意識と責任感の向上が見られるなど各活動のそれなりの効果が出ている。その結果、地域の活動全体を網羅するための「くらしのネットうらかみ」の立ち上げにつながった。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

《誰もが気軽に集い、学び、絆を深める活動を目指して》

- ① 地域の諸活動の核として、果たすべき役割を認識する。
- ② 住民が興味・関心を持つ講座、利用しやすい施設の充実と運営を目指す。
- ③ 地域の活性化と絆づくりに結び付く活動や事業を模索する。
- ④ 防災、減災の拠点としての役割を意識した活動を実施する。



子ども学習教室

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

地域の約68%が高齢者であるが、各種団体の活動には積極的・意欲的に取り組んでおり、その姿勢も協力的である。その活力を更に引き出すための創意工夫を含めた更なる検証が必要である。その為、外部講師を招聘や公民館職員及び各団体の責任者の研修、地域間や公民館間の交流等の取り組みを始めた。



門前そば講習

公民館の沿革・年表

- ・昭和27年 和田村公民館創立
- ・昭和30年 高浜町立公民館和田分館となる
- ・昭和49年 高浜町立和田公民館として独立
- ・平成30年 改修 竣工
- ・令和元年 福井県広報誌コンクール優良賞受賞
- ・令和2年 全国公民館連合会インターネット活用コンクール特別賞受賞
- ・令和2年 4月 オンライン講座の開始
- 11月 文科省オンライン情報交換会で事例発表

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 「オンラインで健康体操」の様様
 コロナ禍による地域住民の孤立防止や運動不足の解消、学習ニーズに対応するため、新型コロナ感染症流行初期よりいち早く、福祉施設職員等にオンライン活用研修を実施し、町内介護施設などにオンラインによる健康体操教室など各種講座を実施した。
- 「うららdeイングリッシュデイ」の様様
 インバウンドへの対応や在住外国人との交流促進に向け、ネイティブスピーカーの講師と一緒にレクリエーションを通して子どもたちが楽しく英語を学ぶ。



オンラインで健康体操



うららdeイングリッシュデイ

1. 都道府県名	福井県	3. 公民館対象人口	約2,600人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	高浜町	4. 建物設置年月日	平成30年3月23日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	50台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1400人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 11000人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 5000人 (住民の交流の場としての来館等)				合計 17,400人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 3人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (地区各種会合で運営について意見聴取や意見交換)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (子どもたちのインバウンドに対する対応能力の養成 (イングリッシュデイ))				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (音楽スタジオの完備やキッズルームに大型のホワイトボードを設置するなど様々な世代が集うことのできる施設となっている。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (和田小学校、高浜中学校、福井大学、和田地区委員会、和田地区自主防災協議会、和田地区文化推進協議会、和田地区スポーツ協会、和田地区老人クラブ連合会、和田de路地祭実行委員会、和田地区子ども会育成会、和田小学校PTA、和田保育所保護者会、やまぼうしの会)				

高浜町立和田公民館

OPEN 9:00~22:00 H P <http://www.town.takahama.fukui.jp/index.html>
 TEL 0770-72-1325 SNS facebook、Instagram





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

令和2年4月から新型コロナウイルスの影響により、**公民館が閉館状態**となり、人と人とのつながりが減り、住民の孤立化、高齢者の運動機能の低下などの危惧など不安や切実な悩みの声を伺いました。そこで、学びによるつながりと元気を届け、地域に活気を取り戻したいという職員の強い思いが生まれました。そこで、どうすれば地域の課題解決できるか何度も話し合い模索する中で、Zoomによる**オンライン講座に挑戦することを決めました**。予算もなく、どの職員にも**知識も経験もなく試行錯誤の挑戦**でしたが、**住民と繋がり続ける公民館でありたいという全職員の強い思い**があったからこそ、いち早く実現できたと思います。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【オンライン講座（ICTの活用）】

公民館が閉館となり、**地域住民とつながることが難しい状況ながらも、オンラインにより「手話教室」「ヨガ教室」「施設向け健康体操教室」「キッズヨガ教室」を開催しました。**

オンラインと対面式を並行で行っている講座は、「健康体操教室」「認知症予防体操教室」「ほかほか元気体操教室」です。今後も、感染状況や住民ニーズに応じて様々な講座を実施する予定です。

【うららdeイングリッシュデイ（子どもの体験活動）】

国際環境認証「ブルーフラッグ」取得のビーチや、「ワールドマスターズゲームズ」開催地でもある地域には、国内外から多くの来訪者が見込まれています。**地域の未来を担う子どもたちに、インバウンドや在留外国人への対応力を育成**するため、企画した事業です。ネイティブの講師とレクリエーションを通して楽しく英語学習を行いました。レクリエーションを通して楽しみながら、講師と長時間過ごすことで、英語や異文化への関心が自然に高まったようです。

【多様性のある講座で持続可能な地域づくり】

様々な世代や特性のある住民を念頭に講座を企画し、**世代間の交流促進、これまで公民館に関心の低かった方、障害などで館に足を運ぶことが困難な方々の生活状況**も視野に入れながら、様々な方々に利用してもらえる公民館を目指して取り組んでいます。



オンライン手話教室



うららdeイングリッシュデイ

3. 取組による成果や効果

・オンライン講座の実施によって、画面を通して相互に顔を合わせ有意義な時間を過ごすことができ、**住民のQOL向上、安心・安全で安定した学びの提供**につながった。

・若年層や介護老人施設の方々など、**これまで公民館講座に関心が薄かった方々や参加が困難だった方々とつながることができた。**

・「**新型コロナの流行**」を前向きにとらえ、**最初から完璧を目指さず、地域課題の解決に向け、職員が日々挑戦しながら実施することで、歩みを止めずに前へ進めることができた。**

・**特別な予算もなく、十分な設備や環境が備わっていても、職員が知恵を絞り創意工夫することでリモート講座の実現に漕ぎ着け、感染拡大があっても開催できることを確信できた。**

・**地域住民のニーズや悩みをいち早く把握し、職員全体で目標として転嫁・共有することで、職員の課題解決力、協働する力が高まった。**



オンライン講座の様子

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

・PDCAサイクルを意識し、講座毎に参加者の声をアンケート形式で区民の声を聞き、反映し、運営している。

・**計画は綿密に、実行は失敗をおそれず、評価の結果は分析し、改善すべきは改善し、講座を実施するようにしている。**

・区内の各種団体（地区委員会、文化推進協議会、老人クラブの役員等）と**随時交流し、運営について協議に努めている。**

（**小コミュニティでの協議会乱立による宛職や疲弊防止の観点から、既存会議を活用し適宜・臨機の改善を目指している。**）

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

松尾芭蕉の俳諧理念の「**不易流行**」をモットーにしている。古い考え方や本質的な考え方を大切にしながらも、**新しく変化していく考え方も取り入れていくこと**を大切にしています。時代時代に応じて前向きに取り組もうという気持ちが、今回の「新型コロナ」の中での、**素早いリモートでの講座**に結びついたと思います。



和田公民館のモットー

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

今後も、体操教室などで「オンライン講座」の継続的な実施をし、新型コロナウイルスの影響により開催が難しくなった講座が出てきた場合も、**常に対応できる公民館**でありたいと思います。また、体操教室やヨガ教室で実践済みの「**対面とオンライン講座の並行**」での講座実施は、**新型コロナウイルス終息後も需要のある実施方法**であると考えています。

オンラインでの講座について、今後も周知や実施を継続し、より幅広い年代、地域の人々と繋がれる公民館を目指します。



●令和3年5月29日に行われた「ほっとコンサート」の「夢玉花火」

公民館の沿革・年表

- ・昭和23年 河合公民館開館
- ・平成7年 河合ニコニコ王国建設 (まちおこし)
- ・平成16年 新公民館竣工
- ・平成24年 防災教育事業開始
- ・平成26年 第1回「ほっとコンサート」(単発)
- ・平成28年 文化部門事業「ほっとコンサート」開始

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

【辛いコロナ禍！公民館事業と住民パワーを結集したイベント!!】

令和2年度は、コロナの影響により、公民館の使用が制限され、例年のような事業を実施することが難しくなった。そのような状況の中、住民を少しでも元気にしようと河合の田園のど真ん中で、「ほっとコンサート」を行った。住民や各種団体から協力を得、悪疫退散花火の打ち上げも合わせて行った。

また、このコンサートに防災事業を絡め、複合型事業とした。令和3年度は、子どもたちの要望もあり、昨年度よりも更に多い400発の花火を、住民の「夢」を読み上げながら打ち上げ、地区内外から絶賛された。

1. 都道府県名	福井県	3. 公民館対象人口	3814人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
2. 市区町村名	福井市	4. 建物設置年月日	平成16年3月31日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	256台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 110人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 297人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 5629人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 85人	合計 6,121人		
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 1人) 合計 4人				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (「音楽」を通しての地区住民の意識改革・文化レベル向上)				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 (<input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (レコード鑑賞コーナー、音響・照明機材あり)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 (河合保育園・河合小学校・灯明寺中学校・河合ニコニコ王国事業推進委員会・河合地区自主防災組織連絡協議会)				

福井市河合公民館

OPEN 9:00~21:00

TEL 0776-55-0001

HP <https://kawai-ph.org/>

SNS https://www.youtube.com/results?search_query=%E6%B2%B3%E5%90%88%E5%85%AC%E6%B0%91%E9%A4%A8





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

河合地区は、団結力が強く多くの地区事業を実施していた。しかし、地区事業の多さから各種団体が疲れてしまっていた。また、公民館職員はそのサポートに多くの時間を取られ、教育事業が十分に出来ない状態だった。そのため、公民館が中心となり各種団体と共に検討委員会を開き事業の調整を行った。併せて、**住民が楽しみながら無理なく地区の活性化に繋がりたい（要因）**という思いと、**既存の自主グループ活動の8割が音楽に関するものであった（住民ニーズ）**ことから、「音楽」を取り入れた公民館事業を始めた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【音楽パワーが、住民に活力を与える…！～活きた公民館改革～（取組全体）】

●ほっとコンサート♪

平成26年に地元ミュージシャンが行った『ほっとコンサート♪』、そのネーミングをそのまま使い、本格的なプロやアマチュアミュージシャンの演奏を聴く機会として、また自主グループの発表、演奏をやりたい住民が参加できる場として、コンサートを継続的に行っている。**コンセプトは、“ホットなお茶を飲みながらリラックスして音楽を聴く。心のリラクゼーションは明日への活力”。**

コンサートを行う際には、コンサートをイメージさせるチラシを全戸配布する他、会場の公民館に照明や音響機材を設置し、本格的な会場に変身させている。これは、雰囲気盛り上げる目的とともに、**街中と違い音楽文化が浸透していない農村地区で、コンサートへ行くとはいくつものか学んでもらうためでもある。**これまで、音楽に触れてこなかった人たちにも気軽に、しかし本格的に楽しんでもらえるよう努めている。

●レコード鑑賞コーナー

定期的で開催していたレコード鑑賞会が発展し、館内に「レコード鑑賞コーナー」を設けるに至った。鑑賞コーナーは来館者の**自由に語り合う、憩いの場**になっている。

●わくどき音楽村

定期的、楽器の自由練習に館を開放し、交流の場としている。また、**貸し出し楽器も準備し、音楽に触れ合う機会を増やす取り組み**を行っている。



大会議室をライトアップと



階段下のレコード鑑賞コーナー

3. 取組による成果や効果

●新たに音楽サークルを立ち上げる人や、昔楽器をやっていた人・新たに始めたい人など**意欲を持って公民館へ訪れる人が増えてきた。**また、これまで公民館に縁の薄かった中高年の男性も、館へ足を運んでくれるようになった。

●コンサートチケットの発行により、地区住民が自分の友だちなどをコンサートへ招待することで、**地元愛**にもつながった。コロナ禍の状況では、通常事業の開催は難しかったが、代わりに屋外コンサート+打ち上げ花火（R2.7、R3.5）を行い、地区に大いに活力を与えた。その結果、**公民館の活動に興味を持ち喜んでくれる人が増えてきた。**

●コンサートをYoutubeでも見れるという**特典形式**にすることで、防災事業の緊急連絡網配信訓練への参加者を伸ばすことに成功している（**情報発信用LINEの登録者数が飛躍的に増加**）。



令和3年5月29日 田園の真ん中で開催「ほっとコンサート“あかるい未来へファンファーレ&夢玉花火”

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

●毎回アンケートをとり、住民の意見を調査し、検証・改善に生かしている。当初「なぜ音楽？」という声あったが、昨年・今年とマスコミ関係が多く取り上げてくれたことで、住民の理解も進んでいる。音楽を絡めた事業により、様々な面で住民が元気になっていることを実感している。

●この効果的な事業を、このまま公民館主体で行うか他団体に委託するかが課題となるが、公民館が核となり、幅広い人に負担が少ないように呼びかけていく方が存続できるのではないかと考える。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

●常に「現時点での公民館の役割は何か？」を考えて柔軟に行動している。現段階では「地区民が元気になる！」ことを課題として動いているが、それは「地区が元気になること=自治力」であると思う。

●**一番大切にしていることは、まず公民館の職員がスクラムを組んで行動するチームワーク力である。**

住民の自治力の結集「自主防災会」→



6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

●現在、一般の住民が徐々に自らの意思で動き出している。特に「音楽」を通しての公民館利用者数が多くなり「ほっとコンサート」への出演も希望してきている。この事業は地区間、他年齢層のつながり、意欲の向上をも自然な形で促すことができるため、今後も**教育事業・地区事業などに「音楽パワー」を投入しながら、皆が自らの力に目覚めるような事業を展開していきたい。**

一般住民主催事業「いら♥ぶ河合」→





公民館の沿革・年表

平成19年5月 第1回全国公民館報コンクール最優秀賞
 平成21年2月 第2回全国公民館報コンクール最優秀賞
 平成23年1月 第3回全国公民館報コンクール最優秀賞
 平成25年12月 第13回ふるさとCM大賞NAGANOで飯綱町CMが優秀賞
 平成30年12月 第18回ふるさとCM大賞NAGANOで飯綱町CMが優秀賞
 平成31年1月 第7回全国公民館報コンクール優良賞
 令和3年1月 第8回全国公民館報コンクール銀賞

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

例年2月に行われる、分館長会議にて飯綱町の町内ニュースを放映し、それを見る様子。

1. 都道府県名	長野県	3. 公民館対象人口	10,733人	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
2. 市区町村名	飯綱町	4. 建物設置年月日	平成元年3月	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者（ <input type="checkbox"/> 〇〇地区まちづくり協議会）	<input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）		
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 272人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 12722人	<input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計	12,994人
	<input type="checkbox"/> その他 0人	（ <input type="checkbox"/> ）			
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人	<input type="checkbox"/> 兼任 7人	<input type="checkbox"/> 非常勤 4人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	
	（職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人		職員のうち社会教育士の数 0人	）	合計 12人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算	<input type="checkbox"/> 委託金	<input type="checkbox"/> 自治組織等予算	<input type="checkbox"/> 寄附等	<input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり	<input checked="" type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）		
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動	<input type="checkbox"/> 子ども食堂	
	<input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画	<input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	
	<input type="checkbox"/> ICTの活用	<input checked="" type="checkbox"/> 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	
	<input type="checkbox"/> ボランティア養成	<input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
	<input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 学校	<input type="checkbox"/> 生涯学習センター	
	<input type="checkbox"/> 自由記述（ <input type="checkbox"/> ）	<input type="checkbox"/> その他（ <input type="checkbox"/> ）	運動場		
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学	
	<input type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関	
	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> その他	
	（ <input type="checkbox"/> ）				

飯綱町公民館

OPEN 9:00~22:00

H P <https://www.town.iizuna.nagano.jp/docs/460.htm>

TEL 026-253-6560

SNS



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

地域の今の姿を映像として残し、後世の学びの機会としてほしいという願いから、本事業が誕生しました。地域おこしに意欲的に取り組んだ歴代編集委員の方々の熱意により、最新の映像機器も整備され、これを有効活用した編集作業やふるさとCM撮影にも取り組んできました。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

ビデオ編集委員会

牟礼村と三水村の合併により誕生した飯綱町の今の姿を映像として残し、後世に町内外の出来事を伝える事業を行っています。その年のイベントやニュースなどを編集委員の方々とともに撮影し、動画編集を行います。2月に行う分館三役研修会の場で完成した「町内ニュース」を上映します。完成したものはすべて保存し、要望があれば希望する年の町内ニュースを貸し出すことも行っています。ちょっとしたイベント等にも編集委員の方々が撮影に向かい、地域の今を伝える情報の収集を行いながら、日夜編集作業に尽力されています。



パルセイロとの協定を結んだ際の撮影



CM大賞

3. 取組による成果や効果

地域の情報誌である公民館報のみでは伝わらない地域の姿や息づかいを、映像化することにより、情報が鮮明で具体的な学習資料となります。後日訪れるふりかえりの機会の際には、時間が経ち忘れてしまっていた感動も再びよみがえり、現在の姿を見つめなおす学びの材料として大変貴重です。



三水地区祭り

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

現在、完成した町内ニュースが公の場で放映されているのは、2月の分館三役研修会のみであり、編集委員の方々の努力の結晶が陽の目を浴びる機会が少ないのが課題である。平成31年より、いづな大学公開講座でも放映機会を提供しているが、今後は更に町内施設に設置されたモニターや各イベントで放映していき、町民だけではなく、観光客等にも飯綱町の魅力を知ってもらうことが出来るような仕組みを考えていきたい。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

地域における顔の見える関係づくりをモットーとし、「つどう・まなぶ・むすぶ」活動を大切にしています。健康づくりや仲間づくり等を通じて地域課題を把握し、その解決に向けた学びの機会につながる事業の企画等を行っています。



6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

人と人との接触機会の減少に伴い、地域における顔の見える関係づくりが難しくなっています。そんな時だからこそ、町民の皆さんが求めているのは、公民館のような存在だと思います。何事も「できない」で終わらせるのではなく、時代に合わせた取り組みを行い、人と人とのつながりをなくさぬようにしていく。そのために、オンライン方式で誰もが気軽に参加できる企画も実行していきたいと思えます。



集まろう会大湫太鼓の練習風景



毎月発行の広報「大湫」

公民館の沿革・年表

- ・昭和39年 大湫公民館開設
- ・昭和49年 公民館内に大湫保育所設置
- ・平成2年 大湫太鼓発足、公民館が主たる活動拠点となる
- ・平成3年 大湫公民館全面改築、図書館分室を併設
- ・平成4年 公民館広報誌として広報「大湫」を編集発行
- ・平成11年 大湫保育所閉所、子育て教室「集まろう会」発足
- ・平成29年 公民館が指定管理施設に移行「ケテの市」開始
- ・平成30年 大湫公民館「寺子屋」開始、「ふるさと先生」推進
- ・令和3年 釜戸公民館とともにコミュニティスクール事業着手

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 幅広い年代層が参加し練習に励む「集まろう会大湫太鼓」の様相
新公民館の完成とともに歩んできた創作太鼓活動は、男太鼓・女太鼓・子ども太鼓・中高生太鼓と発展しながら地域の社会教育活動の中核を担い続け、大湫公民館文化祭や町主催の夏祭り等の地域行事を盛り上げ、現在の「集まろう会太鼓」に引き継がれている。子どもからお年寄りまで参加する活動が、地域の青少年の健全育成にはたしてきた役割には大きなものがある。
- 広報誌編集ボランティアの皆さんと編集した広報「大湫」
平成3年に新築された公民館の初代館長松浦弥生氏の時代から、大湫町コミュニティ推進協議会の編集委員会と連携し、公民館の機関誌として、公民館事業はもとより、**町内全般の活動を編集発行し**、公民館活動及び地域活動の地域住民への周知と社会教育活動の大切さの啓蒙を図ってきた。

1. 都道府県名	岐阜県	3. 公民館対象人口	323 人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	瑞浪市	4. 建物設置年月日	1964/1/1	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	0台	
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (大湫町コミュニティ推進協議会) <input type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 147人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 165人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 199人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 1307人 (広報委員会12回×9人、大杉再生会議12回×25人、区長会12回×15人、財産区12回×10人、他)				合計	1818人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア協力者 8人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 11人					
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (多世代交流、SDGs)					
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (旧中山道47番目の宿場町であり、ホールには宿場由来の資料展示をしている。)					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (竜吟幼稚園、釜戸小学校、瑞浪北中学校、瑞浪市教育委員会、大湫町コミュニティ推進協議会、指定管理施設「瑞浪市大湫町旧森川訓行家住宅」、瑞浪市社会福祉協議会)					

瑞浪市大湫公民館

OPEN 8:30~17:15

H P

<http://okute-shuku.jp>

TEL 0572-63-2360

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 山間に拓かれた人口3百人余りの宿場町に立地する大湫公民館は、図書館分館・コミュニティ推進協議会事務局を併設する地域の中核施設として、地域住民の生活全般にわたる支え手として機能してきている。少子高齢化・人口減少という地域の課題に対応するため、高齢者の生き甲斐づくり・転入促進対策・子育て支援対策に配慮した講座の企画や実践に取り組んでいる。
- また、昨年7月には、町の中心にあった県の天然記念物「樹齢670年の巨木神明の大杉」が、倒壊し、町民の精神的よりどころを失ったため、その再生復興が地域の課題となり、地域の中核施設である公民館としても、この課題解決へ向けて地域住民とともに全力で取り組む必要が生じた。本館はその問題解決のための主会場となるとともに、市内全公民館と連携して地域住民の心のケアに繋がる活動を企画し実践してきた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【ふるさと先生を活用する各種講座の実践】（高齢者の学び支援・ボランティア養成）

朴葉寿司教室・茗荷餅づくり・蒟蒻づくりなど、地域に伝わる伝統食文化を実践体験することにより、地域の産物の活用と伝統文化の世代間の継承機会を作っている。また、大しめ縄づくり・背蓑づくり・竹箒づくり・田植え体験など、農山村の生活を支えてきた伝統技術を伝承する機会として講座や体験学習に取り組み、田舎暮らしの魅力を次の世代へと引き継いでいる。

各講座開設時には、人生経験豊富な高齢者に「ふるさと先生」として講師になっていただくことにより、高齢者の生き甲斐につなげている。

【移住定住活動の実践と子育て支援につながる講座の開設】（子育て支援・子供の体験活動）

公民館施設を利用しながら転入対策委員会活動を展開し、移住定住者の誘致活動が展開されてきた。また、子育て世代の増加に対応するため、ヒヤリング等によりニーズの把握に努めながら、親子でパンづくり・夏休み木工教室・寺子屋勉強会など、子育て支援につながる講座を積極的に企画実践してきた。

【地域の個性を活かした野外活動の実践】（地域資源を活用したまちづくり）

地元で組織された自然保全委員会を母体として、季節に合わせた自然観察会を開催するとともに、環境省のモニタリングサイト1000の調査事業を受けて、毎月定例で5年間生物調査に取り組んでいる。また、旧中山道の宿場町という地域の個性を活かして、ふるさとの歴史を探访する野外活動に取り組み、歴史の伝承と故郷学習に努めている。

【地域の課題解決へ向けた活動の企画と実践】（防災・その他）

住民の精神的支柱でありながら倒れた大杉の被災から立ち上がるため、神明大杉再生検討会議を組織し、復旧作業の推進と大杉再生の取り組みが始まった。公民館としては、会場を提供するとともに、報道機関・試験研究機関との調整機能を果たし、同時に市内の全公民館を含む12会場の協力を得て、写真展「神明大杉倒木」～中山道大湫宿と大杉の物語～を開催し、住民の心のケアと再生への運動を支援した。



蒟蒻づくり講座



親子でパン教室



倒木大杉写真展

3. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果（思い出に残る公民館事業プロジェクト）】

- 高齢者の社会活動が活発化し、高齢者の勉強会「ひよも」や、技術伝承グループ「山びこどん」などの組織活動が活発化した。
- 子育て世代に、地域社会の住みやすさの評価が伝わり、転入者が増えた。（ここ8年で子育て世帯が10世帯増）
- 自然保全委員会や宿保全委員会など、地域の個性を活かす専門委員会が地域に育ち、住民の地域学習の推進とふるさと意識高揚に効果を上げている。
- 地域に発生した課題を正面から捉えて取り組むことで、住民の課題解決へ向けた協力体制を構築することに貢献できた。



転入家族と芋植え

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 自治会関係者や、自主活動グループの代表者で構成する公民館運営委員会を年2回開催し改善点を提案してもらう。
- 毎月行われるコミュニティ推進協議会の幹事会に出席し、月間の活動実績活動計画を説明し、まちづくりの活動と連携を取っている。
- 地域学校協働活動に関する内容については、域内の釜戸小学校運営協議会で行っている。（館長が副会長として参加）

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

公民館は、地域の中核機関であるとの認識に立ち、コミュニティ推進協議会・区長会をはじめとする地域を支える関係団体の会議に参加し、積極的に情報を収集するとともに、地域の課題を主体的に捉え、公民館の機能を最大限に発揮して、社会教育活動を通じた地域住民の福祉の向上に尽力していくものとする。また、幼小中等の教育機関や行政機関との連携を密にし、効果的な公民館活動を実現していく。



6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

住民に対するヒヤリング・アンケートなどを実施し、ニーズに合った公民館講座を企画するとともに、少子高齢化や人口減少などの地域課題を解決するため、開かれた公民館として老若男女だれもが足を運びやすい施設を目指していきたい。そのために、職員は自己研鑽に励み公民館図書館利用者の活動を介助し、笑顔や笑い声があふれる館の運営を行っていく。施設整備としては、子供の目線に立って館内の展示を充実し、補助遊具の整備を図り、児童館的機能を補強していきたい。

